

# 経 済 学 部

## I 履修要項 (2011年度入学生用)

第1部

第2部

教職課程  
諸資格

## II 学籍および 各種証明書 について

### 注 意

この『履修要覧』は2011年度入学生に適用されるものであり、2010年度以前の入学生には適用されません。

また卒業時まで使用するものであり、再配付しませんので、大切に使用してください。講義内容に関しては、『講義要項』に掲載しています。

# 目 次

学部長挨拶 .....	4
教育研究上の目的について .....	6
I 履修要項 (2011年度入学生用)	
第1章 経済学部共通事項	
授業運営 .....	11
授業 .....	11
単位制 .....	13
履修登録 .....	14
試験・レポート .....	15
成績 .....	18
大学からのお知らせ .....	19
第2章 経済学部独自学生支援プログラム	
1. TOEICによる単位認定制度 .....	20
2. 経済学部語学研修 (ウォーリック大学) .....	22
経済学部語学研修 (ウォーリック) による単位認定制度 .....	22
3. 経済学部海外研修 (ストラスブール大学・マールブルグ大学) .....	23
第3章 海外留学制度 (短期・長期) について .....	24
第4章 第1部3学科共通事項	
1. 授業科目・履修単位数の制限 .....	32
2. 卒業 .....	33
3. 経済学部3年次卒業制度 .....	33
4. ゼミナール・卒業論文 .....	34
第1部 他学部開放科目一覧 (白山キャンパス)・(白山第2キャンパス) .....	35
第1部経済学科	
授業のとり方・学び方 ～入学から卒業まで～	
学科主任挨拶 .....	39
経済学科授業科目一覧 (教育課程表) .....	40
授業のとり方 .....	42
卒業要件 .....	42
経済学科履修モデル .....	43
国際経済学科	
授業のとり方・学び方 ～入学から卒業まで～	
学科主任挨拶 .....	47
国際経済学科授業科目一覧 (教育課程表) .....	48
授業のとり方 .....	50
卒業要件 .....	50
国際経済学科科目展開チャート .....	51
総合政策学科	
授業のとり方・学び方 ～入学から卒業まで～	
学科主任挨拶 .....	55
総合政策学科授業科目一覧 (教育課程表) .....	56
授業のとり方 .....	58
卒業要件 .....	58
総合政策学科履修モデル .....	59

## 第5章 第2部経済学科

学科主任挨拶	63
1. 授業科目・履修単位数の制限	64
2. 第1部・2部相互聴講制度	65
3. 卒業	66
4. ゼミナール・卒業論文	66
第2部経済学科授業科目一覧（教育課程表）	67
第2部他学部開放科目一覧	69
授業のとり方	70
卒業要件	70
第2部経済学科科目展開チャート	71

## 第6章 教職課程・諸資格

1. 教職課程	
教職課程を学ぶにあたって	75
〈1〉教育職員免許状について	75
〈2〉教育職員免許状の取得条件について	76
〈3〉教職の履修登録について	76
（1）本学における「免許法施行規則第66条の6に定める科目」	77
（2）本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表	78
〈4〉教育実習について	86
〈5〉介護等体験について	88
〈6〉「教職実践演習」について	89
〈7〉教育職員免許状一括申請について	90
〈8〉編入生・転入生の教育職員免許状の取得について	90
〈9〉休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について	90
〈10〉教員採用に関する支援について	91
〈11〉教員採用試験について	91
〈12〉科目等履修生制度について	91
〈13〉教職課程履修学生への連絡・伝達について	92
〈14〉教員免許状更新制について	92
2. 公務員採用試験他各種試験	93
3. 社会福祉主事	97

## Ⅱ 学籍および各種証明書について

1. 学籍(学籍異動に関する手続)	
学籍	101
学生証	102
学籍番号	103
4年原級	103
休学	104
退学	105
除籍	106
転部・転科	107
編入学・転入学	107
科目等履修生	108
許可願	108
2. 納付金に関する取扱	109
3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）	112
4. 各種証明書および実習料一覧	114

# I 履修要項

(2011年度入学生用)

# 第1章 経済学部共通事項

この履修要覧は、経済学部の「授業科目一覧」(教育課程表)に基づく「授業科目のとり方」(履修方法・登録)と「卒業までに必要な単位のとり方」(卒業要件)を説明した冊子です。

## 授 業 運 営

### 1. 学 期

1年を次の学期に分けます。

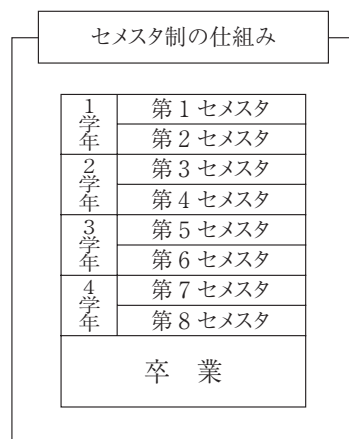
春学期：4月1日から9月30日まで

秋学期：10月1日から3月31日まで

ただし、授業開始日・終了日は年度によって異なるので、「年度行事予定」(『学生生活ハンドブック』)で確認すること。

### 2. セメスタ制

セメスタ制は、右図のように1年を2つの学期(セメスタ)に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。授業は全て半年単位なので、集中して学ぶことができ、また幅広い科目選択が可能です。



## 授 業

### 1. 授業の開講時限・時間帯

授業科目は、春学期又は秋学期のいずれかに開講されますが、科目によっては、春・秋の両学期に開講される科目もあります。

授業時間は、次の表のとおりです。

白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)

	時限	授業時間
第1部	1時限	9:00~10:30
	2時限	10:40~12:10
	昼休み	12:10~13:00
	3時限	13:00~14:30
	4時限	14:40~16:10
第2部	5時限	16:20~17:50
	6時限	18:10~19:40
	7時限	19:50~21:20

※白山第2キャンパスは1~5限、総合スポーツセンターは2~4限のみ授業開講

同日内に白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)間を移動しなければならない場合は、下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成してください。

白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)間をまたがり履修する場合

	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限
履 修 可 能	●			■		
	●				■	
	●					■
		●		■		
		●			■	
		●				■
				●		■

## 2. 休講

授業科目によっては、1週間に2回、もしくは1日に2時限続きの科目もあります（授業時間割表で確認してください）。

教員のやむを得ない理由、学会等への参加、大学の行事により授業を休講にすることがあります。

授業の休講については、担当教員からの連絡により、休講掲示板に掲示します。授業の始まる前には必ず確認してください。

また休講は東洋大学Web情報システムでも公開しています。東洋大学HPより、Web情報システムにアクセスできます。

なお、Web情報システム、休講掲示板等に休講掲示がない場合で、授業開始時間から30分経過しても講義が行われない場合は、経済学部担当窓口へ連絡の上、指示を受けて下さい。

### ○ 『台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合などの授業の取扱い』

#### 1. 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一時的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学のホームページ・東洋大学Web情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

ホームページはアクセスが集中し繋がりにくい場合がありますので、Web情報システムも利用してください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が予想される場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

#### 2. 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、本学のホームページ・東洋大学Web情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

### 3. 欠席

やむを得ない事由により、授業を欠席した場合は、担当教員へ直接連絡してください。教務課窓口では一切取り扱いません。

※ただし、病気・怪我等で長期欠席することが予想される時は、教務課に相談してください。

### 4. 補講・集中講義

次のような場合で、補講・集中講義を実施するときは、その内容を事前に掲示板に掲示します。

- (1) 授業が休講になったとき。
- (2) その他の理由で、特に補講・集中講義を必要とするとき。

## 単 位 制

### 1. 単位制

授業科目の履修には単位制が採用されています。単位制とは、授業科目を履修し、試験に合格することによって、それぞれ定められた単位が認定される制度です。

### 2. 単位数計算方法

単位数の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として、次の基準により定められています。授業時間1時限（90分）は、2時間の授業として計算されます。

種 別	1 単 位 の 計 算 方 法
講義・演習	15～30時間の授業をもって1単位とする。
実習・実験・実技	30～45時間の実習・実験・実技をもって1単位とする。

### 3. 修業年限と在学年数

修業年数は4年です。

在学年数は、通算して8年が限度となります。在学年数8年を過ぎても卒業できない場合は、退学になります。ただし、休学期間は在学年数には算入しません。

### 4. 学士の学位授与

学科教育課程表に基づく卒業必要単位を修得し、在学期間が4年以上経過すれば、卒業と認定し、学士の学位が与えられます。

※経済学部第1部には、3年次卒業制度（P.33）があります。

## 履 修 登 録

### 1. 履修登録

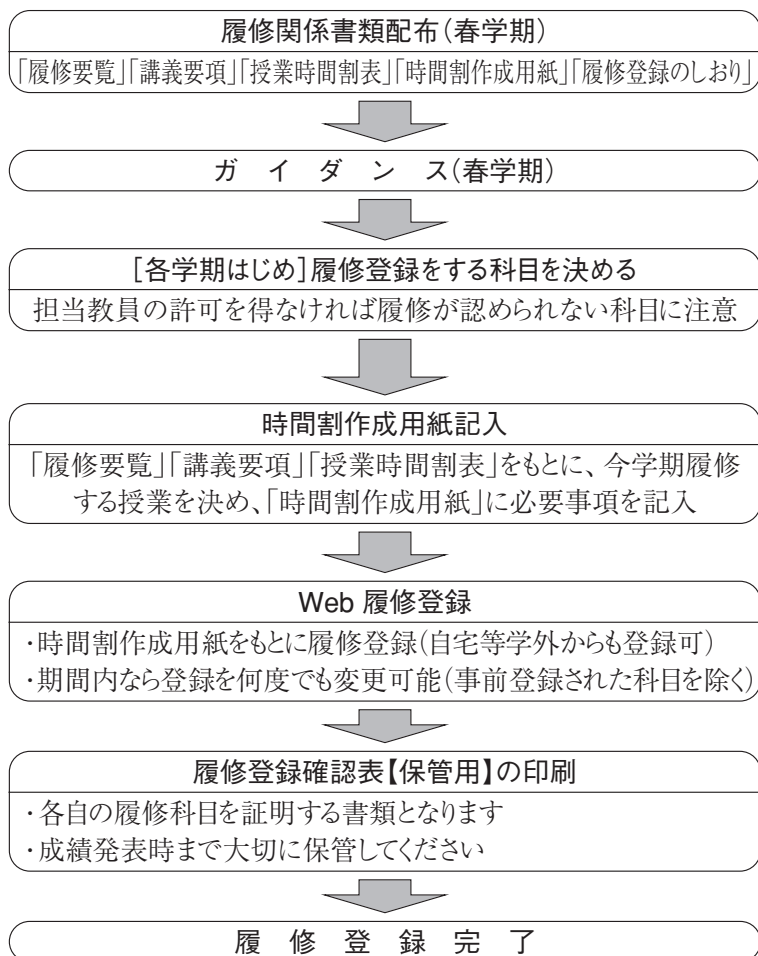
授業を受け、単位を修得するためには事前に履修科目の登録が必要になります。これを「履修登録」といいます。学期のはじめに各学科の授業科目に沿って履修計画を立て、授業科目の登録をしなければなりません。

履修登録は学部や学科のガイダンスに出席して、「履修要覧」「講義要項」「授業時間割表」を参考に各自が計画をたてて行ってください。

履修登録は年2回行います。春学期の履修登録では春学期の開講科目を、秋学期の履修登録では秋学期の開講科目を登録します。

**定められた期間に「履修登録」を怠ると、履修する科目の受講・受験ができず、単位も修得できなくなるので注意してください。**

### 2. 登録のながれ



### 3. 登録上の注意

- ① 履修登録できる単位数は、春学期・秋学期各24単位までとなります。
  - ② 履修登録期間以降の訂正・追加・削除は一切認められません。
  - ③ 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、掲示板に掲示します。
  - ④ 科目の中には、事前に履修許可を必要とするものがあります。この場合、許可を得ずに登録したものは無効となります。
  - ⑤ 原則、同一科目を同時に2科目以上履修すること、すでに単位修得をしている科目を再度履修することはできません。
- ※ コースが違って同一科目を2科目以上履修したり、次年度以降再度履



修することはできません。(例＝スポーツ健康科学実技ⅠA 1コースとスポーツ健康科学実技ⅠA 3コースは同一科目)

- ⑥ **ただし、特講Ⅱの科目については別のコースであれば重複履修し、単位を修得することができます。**
- ⑦ 登録していない科目については、受講することも受験することもできません。
- ⑧ 科目により学部・学科・学年・クラス等指定されている科目もあるので、「授業時間割表」等で確認の上、登録してください。
- ⑨ 学年指定のある科目については、指定された学年より下位の学年の学生は、履修登録することはできませんが、上位の学年の学生は下位の学年の科目の履修登録が可能です。
- ⑩ **履修登録確認表は必ず印刷して、内容を確認し、成績発表まで大切に保管してください。**

## 試験・レポート

### 1. 試験

- ① 履修登録した科目の単位を修得するためには、**授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。**
- ② 試験には、平常試験と学期末に行う定期試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価する場合があります。

[平常試験]

平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行います。

[定期試験]

春学期試験（7月～8月）および秋学期試験（1月～2月）を、全学的に一定の試験期間を設けて行います。

[受験上の注意]

試験実施の約2週間前に試験時間割表を掲示板および東洋大学Web情報システムで発表します。

試験時間割表には受験上の注意事項も記載されています。主な事項を記しておきますので心得ておいてください。

- ① 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
- ② 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
- ③ 学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。
- ④ 1科目で試験会場が2ヵ所以上になる場合、学部・学科・学年・学籍番号等で試験会場を指定しますので、必ず指定された試験会場を受験してください。指定試験会場以外で受験した場合は、無効となる場合がありますので注意が必要です。
- ⑤ 答案用紙には、まず学部・学科・学年・学籍番号・氏名を必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください。  
必ず筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を持参してください。
- ⑥ 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効となります。
- ⑦ 試験時間は60分間です。試験期間中は、すべて時間帯が平常授業時とは異なります。また、試験会場も平常授業時の教室と異なるので十分注意してください。
- ⑧ 試験開始後20分までに入場しないと受験資格を失います。また開始後30分を過ぎないと退場できません。
- ⑨ 中途退場した場合、再入場は認められません。
- ⑩ 試験会場では、携帯電話、PHS等の通信機能が付いた機器は机上に

置けません。また、机上に置かない場合でも、試験の妨げにならないよう電源を必ず切ってください。なお、上記の機器を時計代わりに使用することはできません。

- ⑪ 茶・ジュース等の飲食物の試験会場への持ち込みは禁止です。
- ⑫ 試験に際しては、担当教員の指示物以外を持ち込むことはできません。また、許可されて使用できる六法全書は、次の指定されたものに限り、
  - ・岩波書店 「基本六法」・「セレクト六法」
  - ・有斐閣 「六法全書」・「ポケット六法」
  - ・法曹会 「司法試験用六法」
  - ・三省堂 「新六法」・「デイリー六法」
  - ・第一法規 「新司法試験用六法」
- ⑬ 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、定期試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
- ⑭ 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容は学生生活ハンドブックで確認してください。
- ⑮ 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間的余裕をもって入室してください。

## [不正行為]

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を試験において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

### 1. 処分の種類

処分は譴責、停学、無期停学とする。

### 2. 処分とその対象となる不正行為

#### (1) 譴責の対象となる行為

- ① 持ち込みが認められているものの貸借。
- ② 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せまたはそれを見る行為。
- ③ 試験監督者もしくは監督補助者からの注意を無視した行為。
- ④ その他、前各号の一つに準ずる行為。

#### (2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ① 解答用紙を交換する行為。
- ② 許可されていないもの（カンニングペーパーおよびそれに類するもの）の持ち込み。
- ③ 書き込みを許可されていない持ち込み許可教材、机上、手掌等へ書き込みをしての受験、または、これに類似する行為。
- ④ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴言。
- ⑤ その他、前各号の一つに準ずる行為。

#### (3) 無期停学の対象となる行為

- ① 替玉受験。
- ② 在学中における再度の不正行為。
- ③ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴力行為。
- ④ その他、極めて悪質な行為。

### 3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期）において認定しない。また、上記「2-(2)」および「2-(3)」の停学の対象となる行為については、当該年度（学期）の試験期間において実施される**全ての試験科目の単位を認定しない**。
- (2) 停学期間は当該学部で処分を決定した日（教授会開催日）の翌日から算定する。

[卒業再試験について]

- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接の上、通達する。
- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
- (5) 「譴責の対象となる行為①および②」、「停学1ヵ月の対象となる行為①」、「無期停学の対象となる行為①」の不正行為は、その当事者すべてが上記(1)～(4)の措置の対象となる。

4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。  
(なお、上記不正行為に関する事項については改訂される場合もある。)

4年次生で卒業当該学期に卒業要件を満たしていないものについて、以下の要領で「卒業再試験」を実施する。

(受験資格)

卒業再試験は4年次生で卒業を希望する者の内、卒業当該学期に卒業に不足している科目数が4科目以内でかつ8単位以内の者に対して行われる。

(対象科目)

卒業再試験の対象となる科目は以下のすべてに該当する科目とする。

- (1) 原則として卒業当該学期に履修登録を行っている卒業必要単位となる科目であること。
- (2) 単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること。

(対象除外科目)

以下の科目は卒業再試験対象科目から除外する。

- (1) 演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- (2) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
- (3) 教職科目の内、教職に関する科目
- (4) 不正行為等により無効となった科目
- (5) 通常の評価において「E」「\*(評価対象外)」と判定された科目
- (6) 科目の性質上、担当教員と開講責任学部の学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

(再試験手続き)

再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。

- (1) 再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
- (2) 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
- (3) 代理人による手続きは認めない。

(再試験受験料)

再試験受験料は1科目5,000円とする。

(再試験の評価)

卒業再試験の成績評価は以下の通りとする。

- (1) 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
- (2) 再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。

## 2. レポート

レポート提出方法、日時、提出先を授業時及び掲示板で確認してください。

※教務課窓口では、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

## 成績

### 1. 単位の認定

- ① 単位の認定は、試験またはレポートなどによって査定されます。
- ② 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。

### 2. 成績の評価

成績の表示は次の通りです。

#### 【東洋大学成績評価基準】

成績表示	評価点範囲	合否	基準
S	100～90	合格	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A	89～80		到達目標を十分に達成している。
B	79～70		到達目標を達成している。
C	69～60		到達目標を最低限達成している。
D	59～40	不合格	到達目標を達成していない項目がある。
E	39以下		到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
*	評価対象外		出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格

※評価対象外とは、授業期間を通じ出席不良、または不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

※東洋大学経済学部では、上記基準にかかわらず、S評価は履修登録者の成績上位5%以内と定めています。

#### [成績の通知]

- ① 経済学部では学期ごとに成績表を配布します。  
詳しい日程等については掲示等で指示します。
- ② 成績表は再交付しないので卒業するまで大切に保管してください。
- ③ 履修登録し、受講・受験したにもかかわらず、成績表に評価がない場合は、「成績表」と「履修登録確認表」を持参のうえ、成績調査期間内に教務課で確認してください。

#### [学習指導]

修得単位が極めて少ない場合、第1～4セメスタ終了段階で専任教職員による面接指導を行う場合があります。

[成績優秀者の表彰制度]

経済学部では成績が優秀な学生に対し表彰を行っています。  
2年生と3年生の優秀者は4月のオリエンテーション期間に、4年生の優秀者は卒業式に表彰します。本取組は成績優秀な学生を表彰し、より一層の努力を奨励すると共に、本学部生全体の学習意欲の向上に繋がることを期待して行っています。成績優秀者を目指して頑張ってください。

2011 年度 成績優秀者選考予定数

第1部	学 科	2 年 生	3 年 生	4 年 生	合 計
	経済学科	20 名	20 名	15 名	55 名
	国際経済学科	20 名	20 名	15 名	55 名
	総合政策学科	20 名	20 名	15 名	55 名
	計	60 名	60 名	45 名	165 名

第2部	学 科	2 年 生	3 年 生	4 年 生	合 計
	経済学科	10 名	10 名	7 名	27 名

上記の他、春学期卒業生5名、3年次卒業生2名も予定しています。  
※選考予定数は年度により変動する可能性があります。

大学からのお知らせ

教務課（大学）からの通知・連絡などは、すべて掲示により行います。登校したら、必ず掲示板を確認してください。  
教務課（大学）への問い合わせは、すべて窓口で受け付けます。電話による授業（休講）・試験などに関する問い合わせは受け付けません。

	内 容	白 山	
窓 口	教務全般に 関すること	教務課窓口 (6号館1階) 月～金曜 9:30～13:00 14:00～20:30 土曜 9:30～12:45 17:30～20:00	
		1号館1階1102番教室横	
掲 示 板	授業時間割表 (教室変更を含む)	1号館1階エレベーターホール 6号館1階	
	休 講	第1部	1号館1階エレベーターホール
	授業・試験・ 補講・レポート	第2部	1号館1階1101教室前
	学籍・成績・ 学生呼び出し・その他	1号館2階エレベーターホール	
	教 職	1号館1階1102番教室横 6号館地下1階6B12番教室前	

※夏季休暇・冬季休暇・春季休暇・大学祭期間中は、窓口の受付時間等を変更する場合がありますので注意してください。  
※掲示板の設置場所が変更になった場合は、別途案内します。



## 第2章 経済学部独自学生支援プログラム

### 1. TOEICによる単位認定制度

#### TOEICによる単位認定制度

(変更があった場合は、学部掲示板にて周知しますので、注意してください。)

TOEICにおいて、本学経済学部学生が以下に定めるスコアを取得し、それを証明する書類の提出など所定の手続きをとれば、「英語演習」の履修が免除され、相応の単位と評価が認定されます。

#### ☆対象学生

2008年度以降入学の本学経済学部第1部・第2部学生

#### ☆TOEIC認定基準表

点数	各年次で認定可能な科目数(単位数)(注1)	評価
520～599	1科目(2単位)	A
600～699	2科目(4単位)	A
700～799	3科目(6単位)	A
800以上	4科目(8単位)	S

#### ☆単位が認定される科目名と単位数(各2単位)

##### 第1部

「英語演習Ⅰ(表現)A」「英語演習Ⅰ(表現)B」「英語演習Ⅰ(理解)A」「英語演習Ⅰ(理解)B」

「英語演習Ⅱ(表現)A」「英語演習Ⅱ(表現)B」「英語演習Ⅱ(理解)A」「英語演習Ⅱ(理解)B」

「英語演習ⅢA」「英語演習ⅢB」

##### 第2部

「英語演習ⅠA」、「英語演習ⅠB」、「英語演習ⅡA」、「英語演習ⅡB」

※原則として、申請科目は、当該学期の履修登録科目とします。

#### ☆スコア取得時期と単位認定年次

##### 原則として

2年生 : 1年生在学中に取得したスコアが対象となります。

3年生 : 2年生在学中に取得したスコアが対象となります。

4年生 : 3年生在学中に取得したスコアが対象となります。

#### ☆追加申請

一度申請し、単位認定を受けた後、TOEIC認定基準表のさらに上のランクのスコアを取得した場合は、次学年時に再度申請することができます。その場合、増加した科目分の単位と評価が追加認定されます。

#### ☆申請期間

春学期及び秋学期における各履修登録手続き期間中

#### ☆申請時に提出する書類

- (1) 経済学部TOEIC単位認定申請書
- (2) TOEICのスコアを証明する公式の書類

OFFICIAL SCORE CERTIFICATE(認定証)または本学経済学部主催のIPテストのスコアレポート(現物とコピーを窓口を持参し、コピーを提出)

☆主な手続き

- (1) 該当するスコアの取得者は、履修登録期間に申請科目を履修登録のうえ、提出書類を経済学部教務課に提出し、所定の手続きをとる。
- (2) 経済学部語学委員会で提出書類を審査。
- (3) 経済学部教授会で審議・承認。
- (4) 単位認定した科目の担当教員に単位・評価が認定された旨を連絡。
- (5) 当該学生に単位・評価が認定された旨を通知。
- (6) 経済学部教務課で当該学生の履修・成績評価を処理。

## 2. 経済学部語学研修（ウォーリック大学）

経済学部では、夏季休暇中にイギリス中部のコヴェントリーにあるウォーリック大学で、学部独自の語学研修を実施しています。期間は約3週間で、現地大学教員による英会話の集中レッスンやホームステイを通じ、英語の一層のスキルアップと貴重な体験ができます。

また、語学研修の成績・事前研修およびレポート等を総合的に判断した結果、成績評価が優秀な学生に対し旅費の一部（上限5万円）を援助しています。

また、以下のような単位認定制度（研修参加翌年度に認定）が整備されています。

なお、研修後のレポート作成および研修参加費が必要となります。

### 経済学部語学研修（ウォーリック）による単位認定制度

（変更があった場合は、学部掲示板にて周知しますので、注意してください。）

本学経済学部学生が、ホームステイをしながらウォーリック大学（イギリス・コヴェントリー）において、休暇期間中に約3週間実施される英語研修に参加し、所定の要件を満たし、所定の手続きをとれば、「英語演習」の履修が免除され、相応の単位と評価が認定されます。

#### 《研修の概要》

- ・東洋大学での4回の事前学習。
  - ・経済学部専任教員が引率し渡英。
  - ・ウォーリック大学専任スタッフによる英語および英会話等の集中レッスン。
  - ・ウォーリック大学が厳選するホームステイ先における英国の社会・文化の実体験。
  - ・Oxford, Stratford-upon-Avon（シェークスピアの生誕地）、Iron Bridge（産業革命ゆかりの地）などへの週末旅行。
  - ・習得した英会話力のロンドンでの実践。
- ※上記の研修で30コマ（1コマ90分）以上に相当する学習内容を確保します。

#### 《対象学生》

本学経済学部第1・2部学生。

#### 《成績評価》

東洋大学での事前学習、ウォーリック大学での研修などに参加し、所定の要件を満たし、所定の申請手続きをとった後、語学委員会で審査し、教授会の審議・承認を経て、「英語演習A」および「英語演習B」の2科目セットで、それぞれ2単位、計4単位を認定します。

#### 《研修参加時期と単位認定される科目名・単位数》

原則として研修に参加した次学年時に履修する「英語演習A」（2単位）および「英語演習B」（2単位）の2科目、合計4単位が認定されます。（ただし、4年次での研修参加者はこの限りではありません）

- 第1部
- 1年次に参加：「英語演習Ⅱ（表現）A」「英語演習Ⅱ（表現）B」または「英語演習Ⅱ（理解）A」「英語演習Ⅱ（理解）B」のいずれか2科目4単位
- 2年次に参加：「英語演習ⅢA」「英語演習ⅢB」の2科目4単位
- 3年次に参加：「英語演習ⅢA」「英語演習ⅢB」の2科目4単位  
（ただし、3年次に英語演習Ⅲが未履修の場合に限ります）

- 第2部
- 1年次に参加：「英語演習ⅡA」「英語演習ⅡB」の2科目4単位

#### 《申請期間》

研修に参加した次学年の最初のセメスタにおける履修登録手続き期間中に一括申請を行ってください。

※原則として、申請科目は、当該学期の履修登録科目とします。



《申請時に提出する書類》

経済学部語学研修（ウォーリック）単位認定申請書

《語学研修（ウォーリック大学）参加による単位認定の手順》

5月	参加希望者は募集説明会に出席
6月	研修参加者の決定・発表
6～7月	事前学習（英語集中講座）および事前研修（2回実施）に参加決定者は出席
9月	ウォーリック大学およびロンドンにて語学研修を実施
12月～ 翌年1月	経済学部語学委員会および経済学部教授会で語学研修の成績評価について審査・審議
翌年1月	語学研修の成績評価を参加者に通知
参加した 次の学年	単位認定希望者は、語学研修に参加した次学年の最初のセメスタの履修登録期間に単位認定申請手続を行う（注1）
申請手続 した翌月	経済学部語学委員会および経済学部教授会で単位認定申請内容について審査・審議し、承認された単位認定結果を単位認定申請者に通知

注1：秋学期に学年が上がる学生は、秋学期の履修登録期間に単位申請手続を行いますので、教務課窓口にご相談ください。

### 3. 経済学部海外研修（ストラスブール大学・マールブルグ大学）

3月初旬に本学の協定校であるフランス・ストラスブール大学、ドイツ・マールブルグ大学で10日間程度の海外研修を実施しています。研修では現地大学教授による経済学の講義や学生との交流会、海外の文化・習慣・歴史に触れることにより貴重な体験ができます。研修の前に事前学習、研修後にはレポート作成を行います。

なお、研修参加費が必要となります。

《その他》

参加費用・日程・募集人数等の詳細については、募集チラシを参照してください。

## 第3章 海外留学制度（短期・長期）について

### 〔1〕語学セミナーについて

本学では、キャンパス・学部・大学院・通信教育部制を問わず参加できる、海外の大学で学ぶ語学研修・異文化体験プログラムを実施しています。それぞれ夏季・春季休暇期間中に実施されます。

語学セミナーに参加した学生は、所定の手続きにより**単位認定**を受けることが可能です。単位認定の詳細については、**語学セミナーによる単位認定制度**を確認してください。

※春期語学セミナーについては、卒業年度生は参加できない場合がありますので、希望する方は国際交流センターまでお問い合わせください。

#### ● 夏期語学セミナー

##### ① モンタナ大学（UM）コース

～英語講座・課外アクティビティを通じて英語力を向上させるプログラム～

研修先：モンタナ大学（アメリカ・モンタナ州ミズーラ）

期 間：毎年8月～9月（約4週間）

内 容：英語力向上を目的としたプログラム。英語集中講座に加え、地域の特性を活かしたアクティビティ、大学寮での滞在をしながら、様々な経験ができます。

##### ② トンプソンリバーズ大学（TRU）コース

～全期間ホームステイで、カナダの文化・習慣・生活を肌で感じる感動体験～

研修先：トンプソンリバーズ大学（カナダ・ブリティッシュコロンビア州カムループス）

期 間：毎年8月～9月（約4週間）

内 容：全期間ホームステイで、食事は平日2食付です。リスニング・スピーキングに重点を置いた英語集中講座、大自然を体感できる多数のアクティビティ、研修旅行等を通じ、“使える”英語の習得を目的としたプログラムです。

#### ● 春期語学セミナー

##### ③ ダブリンシティ大学（DCU）コース

～6週間のホームステイと英語集中プログラム。ヨーロッパの歴史を感じながら英語力アップ～

研修先：ダブリンシティ大学（アイルランド・ダブリン市）

期 間：毎年2月～3月（約6週間）

内 容：全期間ホームステイ。食事は平日2食（朝・夜）、週末は3食付き。ゴルウェイ観光（2泊3日）をはじめとする旅行、セントパトリック・デイなども楽しめます。

##### ④ CQ（シーキュー）大学（CQU）コース

～ホームステイ・英語集中講座・アクティビティを通じてリスニング・スピーキング力アップ～

研修先：CQ大学（オーストラリア・クイーンズランド）

期 間：毎年2月～3月（約4週間）

内 容：全期間ホームステイ。食事は3食付き。授業やアクティビティを通じ、英語・オーストラリア特有のアボリジニ文化を学べます。

##### ⑤ 大連外国語大学（大外）コース

～東洋大学とゆかりの深い大連は、日本企業が中国で最も多く進出しているビジネスエリア。中国語を全く習ったことがなくても参加できます。～

研修先：大連外国語大学（中国・遼寧省大連市）

期 間：毎年2月～3月（約4週間）

内 容：大学構内の留学生寮に滞在（二人部屋）。食事は自己負担。学食や近辺の食堂を利用。日帰り旅順研修旅行、瀋陽研修旅行（2泊3日）も含まれます。

※ 研修先・内容は変更される場合があります。詳細は、国際交流センター発行のパンフレットまたは国際交流センターのホームページ<http://www.toyo.ac.jp/international/>を参照してください。

## 語学セミナーによる単位認定制度

### (目的)

語学セミナーに参加した学生の単位を認定することを目的とする。

### (単位認定の対象となるセミナー)

単位認定の対象となるセミナーは以下の通りとする。

- 春期語学セミナー（英語）、春期語学セミナー（中国語）
- 夏期語学セミナー（英語）

### (認定の対象となる単位および認定単位数)

1. 語学セミナーに参加した次のセメスター開講の文化間コミュニケーションの1科目を単位認定する。
2. 単位認定は、次セメスター1科目2単位とする。
3. 再履修科目は単位認定対象外とする。

### (認定対象科目)

1. 春期語学セミナー(英語) 単位認定対象科目  
英語演習Ⅱ（表現）A    英語演習Ⅱ（理解）A    英語演習ⅢA
2. 春期語学セミナー（中国語） 単位認定対象科目  
中国語演習Ⅱ（文法）A    中国語演習Ⅱ（総合）A  
中国語演習ⅢA    中国語演習上級A
3. 夏期語学セミナー（英語） 単位認定対象科目  
英語演習Ⅰ（表現）B    英語演習Ⅰ（理解）B    英語演習Ⅱ（表現）B  
英語演習Ⅱ（理解）B    英語演習ⅢB

### (申請手続き)

1. 語学セミナーに参加した次のセメスターの履修登録期間中に下記の手続きをとる。（事後申請・登録）
  - ①: 単位認定申請書を提出する。
  - ②: ①で認定申請をだした科目について履修登録を行う。
  - ③: ①で認定申請をだした当該授業を受講する。※なお、語学セミナーに参加した次のセメスターにおいて休学・退学・除籍となった場合は単位認定を申請する権利を失う。
2. 単位認定申請書およびセミナー実施校からの成績に基づき、語学委員会にて審査する。
3. 経済学部教授会で審議・承認する。
4. 単位認定した科目の担当教員に単位・評価が認定された旨を連絡する。
5. 当該学生に単位・評価が認定された旨を通知する。
6. 経済学部教務課で当該学生の履修・成績処理を行う。

本規程は2008年4月1日より適用される。

## 〔2〕 交換留学制度と認定留学制度

「東洋大学学生の留学に関する規程」第3条に基づき、本学の交換留学制度には、協定校・ISEP交換留学制度および認定留学制度があります。

※次の情報は、2011年度4月現在の情報です。内容は変更される場合がありますので、随時学内掲示・国際交流センターのホームページ <http://www.toyo.ac.jp/international/> で最新の情報を確認してください。

## 交換留学制度

東洋大学では、現在30大学と学術交流協定を締結し、またISEP（アイセップ）\*に加盟しています。交換留学制度とは、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アイルランド・ドイツ・フランス・韓国・中国の協定校、または米国のISEP加盟校に1学年度間学生を派遣し、同じくこれらの大学から交換留学生を本学に受け入れる制度です。

\*ISEP（International Student Exchange Program）とは、世界中のISEP加盟校間で学生交換留学を推進する、非営利団体のコンソーシアム（世界的な大学連合組織）です。本学の交換留学対象校は、米国のISEP加盟校（約140校）に限ります。

### (1) 制度の特徴

#### ① 学籍と在学年数の取扱い

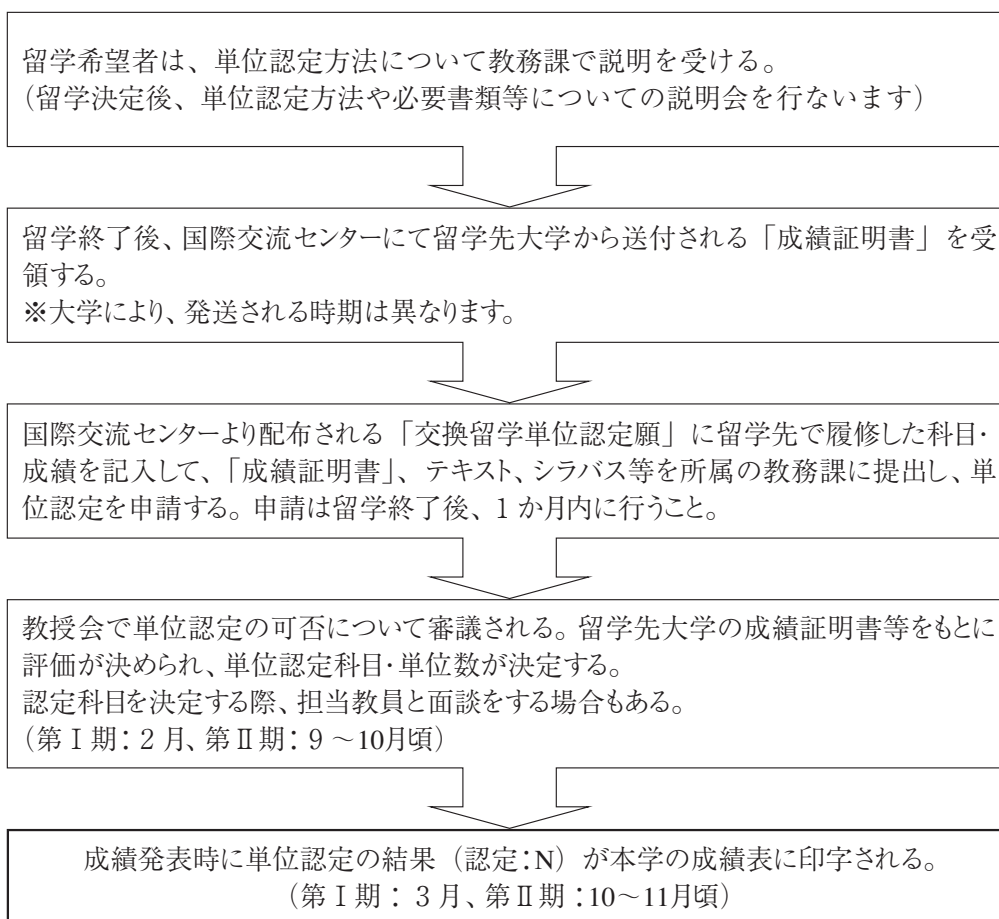
交換留学は、休学することなく留学できます（留学中も本学に在籍していますので、留学期間は在学年数に算入されます）。「本学の修得単位」と「本学で認定された留学先大学の修得単位」により所属学部の卒業要件を満たせば、4年間での卒業が可能となります。

#### ② 単位の認定

留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位に認定されます（上限30単位、卒業論文は除く）。

**単位認定対象科目：**一般教養的科目「他学部他学科開放科目」、専門科目「選択科目A」（第2部経済学科は「選択科目B」）として一括認定

**単位認定手続き：**単位認定は、以下の手順で行われます。



#### ○単位認定について

派遣留学生は、留学先大学・大学院で取得した単位に関し、本学開講科目の単位としての認定を申請できます。単位の認定は、留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。そのためには留学前に指導教員、所属学部の国際交流委員、または教務課担当者と留学中の勉学計画について十分に話し合いをしておくことが重要です。単位認定は、教授会または研究科委員会の審議を経て決定されます。なお、過去の単位認定の実例は国際交流センター事務室発行の『留学体験記』で参照できます。

#### ○認定の基準

1. 留学先大学の授与した単位数にかかわらず、留学先大学で履修した科目の実際の授業時間数を考慮して行います。
2. 原則として、授業内容が本学開講科目と同様である必要があります。ただし、学科の内規・慣行により、本学開講科目と異なる場合でも、認定される場合があります。

### ③ 留学にかかる費用

留学先大学の授業料は、協定に基づき原則として免除されます（モンタナ大学を除く）。それ以外に係る経費はすべて自己負担となります。国や地域により、留学に係る費用は異なります。実際にかかる費用の目安は、国際交流センター発行の「交換留学生募集要項」、「留学の手引き」、「交換留学アンケート（国際交流センター窓口閲覧のみ可能）」に掲載されています。

（自己負担費用）

- ・ 東洋大学の学費（留学中も本学に在学しているため、学費は通常通り本学に納入してください）。
- ・ 渡航費
- ・ 海外旅行傷害保険料
- ・ 留学先での寮費、食費、教材費、生活費等

#### <ISEP交換留学>

現地での大学寮費・食事代として、出発前に東洋大学へ850,000円（日本円）を支払います。また、ISEP登録料がかかります（約4万円）。

#### <その他の協定校へ留学する場合>

出発前または現地で大学寮費・食費を直接留学先の大学へ支払います。

### ④ 『東洋大学交換留学生奨学金』の支給

交換留学生に選ばれた学生全員に、本学から「東洋大学交換留学生奨学金」を支給します（**本学の授業料相当額**）。ただし、本学から他の奨学金（東洋大学第1・2・3種奨学金）が支給されている場合は、この奨学金は支給されません。また、減免措置を受けている私費留学生は、**減免後の授業料金額**となります。

※私費留学生は、「東洋大学私費留学生授業料に関する規程」第6条に基づき、所定の修業年度を限度とし、授業料が免除されています。所定の修業年度とは、学部生4年、大学院生博士前期（修士）は2年、博士後期は3年です。交換留学で卒業が延期となり、所定の修業年度を超えた場合の授業料については減免を受けられませんので注意してください。

※（独）日本学生支援機構の奨学金は、本学の奨学金ではありません。留学をする場合は、事前に手続き等が必要になる場合がありますので、留学が決定次第、学生生活課へ申し出てください。



(2) 募集概要

留学先の地域により、年2回（7月・11月）、募集・選考を行います。

	第Ⅰ期	第Ⅱ期												
1. 派遣先国・派遣期間	1 学年度間 [オーストラリア] 2月～12月 [韓国] 3月～翌年1月	1 学年度間 [アメリカ] 8月～翌年5月 [カナダ] 8月～翌年4月 [アイルランド] 9月～翌年5月 [ドイツ] 9月～翌年7月 [フランス] 9月～翌年5月 [中国] 9月～翌年7月												
2. 募集人数	10名	40名												
3. 募集説明会・願書配布	4月	10月												
4. 応募締切	7月	11月												
5. 学内選考試験	7月中旬	11月中旬												
6. 合格発表	8月	12月												
7. 出願資格	<p>1) 学籍 出願時において、本学の学部1～3年生、本学大学院進学予定の4年生、大学院生であること。</p> <p>2) 語学能力 【英語圏】TOEFL-iBTまたはITPを受験していること。また留学意欲が十分にあり、留学先大学で生活・勉強ができるレベルの語学能力を有する者。 【ドイツ語・フランス語・中国語圏】留学意欲が十分にあり、留学先大学で生活・勉強ができるレベルの語学能力を有する者。 ＜語学能力基準＞ 留学にあたっては、下記の基準を満たしていることが望ましい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>語 圏</th> <th>基 準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英 語</td> <td>学部生：TOEFL-iBT 61点またはTOEFL-ITP500点以上 大学院生：派遣先大学院の要求するスコア（TOEFL-iBT 80点以上が目安） ※オーストラリアに出願する場合、TOEFL-iBT 80点またはTOEFL-ITP 550点以上が目安。</td> </tr> <tr> <td>ドイツ語</td> <td>ドイツ語技能検定3級程度</td> </tr> <tr> <td>フランス語</td> <td>フランス語技能検定3級程度</td> </tr> <tr> <td>中国語</td> <td>中国語検定3級程度</td> </tr> <tr> <td>韓国語</td> <td>韓国語検定3級程度</td> </tr> </tbody> </table>		語 圏	基 準	英 語	学部生：TOEFL-iBT 61点またはTOEFL-ITP500点以上 大学院生：派遣先大学院の要求するスコア（TOEFL-iBT 80点以上が目安） ※オーストラリアに出願する場合、TOEFL-iBT 80点またはTOEFL-ITP 550点以上が目安。	ドイツ語	ドイツ語技能検定3級程度	フランス語	フランス語技能検定3級程度	中国語	中国語検定3級程度	韓国語	韓国語検定3級程度
語 圏	基 準													
英 語	学部生：TOEFL-iBT 61点またはTOEFL-ITP500点以上 大学院生：派遣先大学院の要求するスコア（TOEFL-iBT 80点以上が目安） ※オーストラリアに出願する場合、TOEFL-iBT 80点またはTOEFL-ITP 550点以上が目安。													
ドイツ語	ドイツ語技能検定3級程度													
フランス語	フランス語技能検定3級程度													
中国語	中国語検定3級程度													
韓国語	韓国語検定3級程度													

※内容は変更する場合があります。出願の際は必ず国際交流センターホームページ、募集要項等で最新の情報を確認してください。

(3) 派遣先大学および募集人数

語圏	期 別	国	大学名	募集人数	
英 語	第Ⅱ期	アメリカ	ミズーリ大学セントルイス校	1名	
			モンタナ大学	3名	
			ウィノナ州立大学	2名	
			ISEP加盟校	20名	
	第Ⅰ期	オーストラリア	カナダ	トンプソンリバーズ大学	2名
			アイルランド	ダブリンシティ大学	3名
			サンシャイン・コースト大学	2名	
			シーキュー大学（CQU）	2名	

ドイツ語	第Ⅱ期	ドイツ	マールブルク大学	2名
フランス語		フランス	ストラスブール大学	3名
中国語		中国	大連外国語大学	2名
韓国語	第Ⅰ期	韓国	韓国外国語大学	1名
			建国(コングク)大学	2名
			東国(トンゴク)大学	1名
			大邱(テグ)大学	2名
合計				48名

### 認定留学制度

認定留学制度とは、協定校の枠にとらわれず、学位授与権のある海外の大学へ留学する制度です。交換留学と同様、本学を休学することなく留学できます。出願・入学手続きは、原則として各自で行いますので、留学に先立って十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが不可欠となります。

#### (1) 制度の特徴

##### ① 学籍と在学年数の取扱い

認定留学は、休学することなく留学できます（留学中も本学に在籍していますので、留学期間は在学年数に算入されます）。「本学の修得単位」と「本学で認定された留学先大学の修得単位」により所属学部の卒業要件を満たせば、4年間での卒業が可能となります。

##### ② 単位の認定

交換留学制度の「②単位の認定」と同様。（P.26参照）

##### ③ 留学にかかる費用

東洋大学から奨学金が支給されます（④参照）が、留学にかかる費用はすべて自己負担となります。留学する国や地域、大学により、費用は大幅に異なります。

（自己負担費用）

- ・ 留学先大学の学費
- ・ 東洋大学の学費（留学中も本学に在学しているため、学費は通常通り本学に納入してください）。
- ・ 渡航費
- ・ 海外旅行傷害保険料
- ・ 留学先での寮費、食費、教材費、生活費等

##### ④ 『東洋大学認定留学生奨学金』の支給

認定留学生には、本学から「東洋大学認定留学生奨学金」を支給します（**本学の授業料半額相当額**）。ただし、本学から他の奨学金（東洋大学第1・2・3種奨学金）が支給されている場合は、この奨学金は支給されません。また、減免措置を受けている私費留学生は、**減免後の授業料の半額**となります。

※（独）日本学生支援機構の奨学金は、本学の奨学金ではありません。留学する場合は、事前に手続き等が必要になる場合がありますので、留学が決定次第、学生生活課へ申し出てください。

(2) 募集概要

1. 派遣先国・大学	学位授与権のある海外の大学の中から、自由によびます。 ○ ISEP-Direct(アイセップ・ダイレクト) 留学は、世界20カ国、30以上のISEP加盟校で実施しており、申請すれば、本学では認定留学となります。詳細は、ISEPのホームページで確認してください。http://www.isep.org/students/Programs/isep_direct.asp ○ 語学学校、短期大学、専門学校等は不可。
2. 募集人数	若干名
3. 願書配布	国際交流センターにて随時
4. 応募締切	(第Ⅱ期)春学期終了後に出発する場合(8～10月留学開始):2月末日 (第Ⅰ期)秋学期終了後に出発する場合(2～4月留学開始):11月末日
5. 選考方法	書類審査
6. 合格発表	出願2～3ヵ月後
7. 派遣期間	1 Semesterまたは1学年度間
8. 出願資格	出願時において、以下の①、②を満たしていること。 ①本学の学部1～3年生、本学大学院進学予定の4年生、大学院生であること。 ②原則として、留学先大学からの入学許可書を入手していること。

[3] 教務課での事前相談について

交換留学及び認定留学をすることが決定した学生は、留学終了後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするために、履修・手続き上注意すべき点(継続履修及び学年進行に関わる科目、帰国後の授業・成績等)について、必ず教務課窓口で相談してください。

◎語学セミナー・留学制度に関する問い合わせ

国際交流センター(3号館5階)

TEL 03-3945-7524

<http://www.toyo.ac.jp/international/>

受付時間 月～金 9:00～13:00、14:00～16:45

土 9:00～12:45

◎学籍・履修・単位認定に関する問い合わせ

教務課窓口(6号館1階)



# 第 1 部 3 学科共通事項

## 第4章 第1部3 学科共通事項

### 1. 授業科目・履修単位数の制限

経済学部では、「専門科目」・「教職科目B」・「一般教養的科目」を開講し、授業を行っています。また、4年間にわたってバランスよく授業科目を履修するために、履修登録することができる単位数に制限があります。

履修上限単位数（単位）

年次	春学期	秋学期
1～4	24	24

- 1) 1セメスタにつき24単位まで履修できます。（上限）
- 2) 既に単位を修得した授業科目は履修できません。
- 3) 上級学年に配当されている授業科目は履修できません。
- 4) 履修制限に含まれる科目は以下のとおりです。

#### 第1部

卒業要件	区 分		履修制限
卒業要件単位 (124単位)	専 門 科 目	必修科目	制限内
		選択科目	
	一般教養的科目	教養科目	
		他学部開放科目	
		語学系科目	
卒業要件外単位	自由科目		制限外
	教職科目B		

#### 「専門科目」

- a. 必修科目 この科目を履修・修得しなければ卒業できない科目です。  
学科ごとに卒業要件（単位数）が異なります。
- b. 選択科目A 自学科の専門科目で、学科ごとに最低要件（単位数）が異なります。
- c. 選択科目B（経済学部他学科科目）、（情報分野）、（教職科目A）があります。

#### 「教職科目B」

履修・単位修得しても卒業単位とはなりません。  
(教職科目A・Bの履修についてはP.75以降の教職課程のページを参照してください)

#### 「一般教養的科目」

- a. 教養科目
- b. 他学部開放科目
- c. 語学系科目（必修科目）  
（選択科目）

この中から各学科の履修条件に沿って、一定の単位を履修し、かつ単位を修得します。

\*外国人留学生については、日本と日本語理解の助けとなる科目が、一般教養的科目の教養科目と語学系科目それぞれ開設されています。

教養科目には「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」の6科目が、語学系科目には「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」の8科目が開設されており、いずれも選択科目として履修することができます。

[経済学部語学系科目について]

1年生の登録については、指定された言語・コースを履修することになっています。

詳細については各学科の説明を参照して履修登録の手続きを行ってください。

※外国人留学生については、語学系科目において自分の母国語・母語の科目は履修できないので注意してください。

[スポーツ健康科学系科目について]

①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。

・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます[1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。

・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。

②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

[他学部開放科目について]

他学部が開講する科目です。他学部開放科目一覧を参照してください。

① 他学部開放科目一覧（P.35～P.36参照）に定める科目以外は履修することはできません。配当学年はその学部の配当に従ってください。

② 過去に単位を修得した科目については、再度履修することはできません。

③ **他学部開放科目は一般教養的科目の卒業必要単位数として算入します。**

[自由科目について]

経済学部の各学科授業科目一覧（教育課程表）にない科目で、なおかつ、他学部開放科目として履修できない科目の履修を希望する場合は、**卒業単位にならない自由科目として履修登録することができます。**（通年科目は除く）

① 所属する学部学科の科目と同一内容・同一名称の科目は履修できません。

② 履修する学部学科の学年配当に従うこと。

③ カリキュラム年度の異なる科目を履修することはできません。

④ 第1部学生が第2部開講科目を自由科目として履修することはできません。

⑤ 履修単位制限内に含まれます。

⑥ 自由科目を履修する場合は、担当教員の承認を必要とするので、所定用紙（教務課窓口で配布）に必要事項を記入し、その科目の担当教員の署名または認め印を受けたうえで教務課に提出してください。

## 2. 卒業

経済学部を卒業するためには、経済学部各学科が開講する授業科目を各学科が定める一定の履修条件の基に124単位修得しなければなりません。詳細は学科ごとのページを参照して、間違いなく履修登録を行い単位を修得してください。

## 3. 経済学部3年次卒業制度

経済学部では、早期の大学院等への進学、または社会での活躍の機会を広げるため、条件を満たした**第1部**の優秀な学生に対して3年次修了時の卒業を認めます。

3年次卒業を希望する学生は、1年次からしっかり履修計画を立て、勉学に励んでください。また説明会に出席し詳細を確認のこと。（日程等は掲示します。）教務課、ゼミナール教員ともよく相談してください。

なお、**3年間での教育職員免許状の取得は不可能**です。

申請資格および卒業条件は、次のとおりです。

## 申請資格および卒業条件

- I 3年次卒業の申請条件（2年次修了時に以下①～⑤の条件すべてを満たした学生が申請できます。）  
申請期間は2月末の成績発表後の数日間の予定です。
- ① 2年次までの卒業必要科目の修得単位数が88単位以上であること
  - ② 2年次までの卒業必要科目の評点平均が、5.4以上であること（小数第2位を四捨五入） ※注1
  - ③ 経済学部専門科目で20単位以上のS評価を得ること
  - ④ 2年次のゼミナール指導教員の推薦を得ること
  - ⑤ 本人が保証人の了解を得て申請すること
- II 上記Iの条件を満たした学生について、経済学部は審査の上、3年次卒業の資格を与えます。（4月上旬発表予定）資格を与えられた学生は、3年生で卒業論文を執筆し、各学科所定の卒業条件を満たさなければなりません。
- III さらに、資格を得た学生が以下の成績基準を満たした場合、経済学部長はその学生の卒業の審査を行います。
- ① 3年次の評定平均が、5.0以上であること ※注1
  - ② 卒業論文の評価がSであること
- IV 卒業審査に合格した学生は、3年次で卒業します。

※注1 評点平均は以下の方法で計算する

**評定平均の算出法** S=6点 A=5点 B=4点 C=2点 D=-5点 E=-6点 とし、

$$\frac{\sum(\text{点数} \times \text{単位数})}{\text{履修単位数}}$$
（ただし、履修単位数（卒業必要科目）には〔評価対象外〕\*も含める）で計算する。

## 4. ゼミナール・卒業論文

### ① ゼミナールについて

ゼミナールは少人数の授業の中で、教員と学生が自由に議論しながら、専門的な領域の学習を着実に深めるためのものであると共に、教員と学生の親密な知的交流の場でもあります。大学院受験や公務員試験で必要となる人物証明書の準備のためにも積極的に履修してください。

なお、第1部3学科では1年次のゼミナールが必修です。また、総合政策学科は2～4年次のゼミナールも必修です。

### ② 卒業論文について

1) 卒業論文の執筆要項は、講義要項や経済学部ホームページに掲載します。

2) 卒業論文の提出期限は厳守してください。提出期間外は「一切」受け付けません。

3) 手続の日程については掲示等でお知らせします。

※ 卒業論文執筆のためには履修登録が必要です。忘れずに登録してください。

第1部 他学部開放科目一覧（白山キャンパス）

開講学部	開講学科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次			
文学部	インド哲学科		現代に生きる仏教 仏教と社会福祉 現代のインド インド現代思想	(2) 日本の思想 (2) キリスト教とは何か (2) イスラムとは何か (2) ヨーガとアーユルヴェーダ	(2) (2) (2) (2)			
			古代日本文学史A 古代日本文学史B 中世日本文学史A 中世日本文学史B	(2) 近世日本文学史A (2) 近世日本文学史B (2) 近現代日本文学史A (2) 近現代日本文学史B	(2) (2) (2) (2)			
	日本文学文化学科		英語圏文学文化と日本A 英語圏文学文化と日本B ドイツ語圏文学文化と日本A ドイツ語圏文学文化と日本B	(2) フランス語圏文学文化と日本A (2) フランス語圏文学文化と日本B (2) 中国文学文化と日本A (2) 中国文学文化と日本B	(2) (2) (2) (2)			
			日本の伝統行事A 日本の伝統行事B	(2) 日本美術文化史A (2) 日本美術文化史B	(2) 日本出版文化史A (2) 日本出版文化史B	(2) 比較文学文化史A (2) 比較文学文化史B		
				万葉文化論A 万葉文化論B 王朝文化論A 王朝文化論B 室町文化論A 室町文化論B	(2) 江戸文化論A (2) 江戸文化論B (2) 近現代文化論A (2) 近現代文化論B (2) 比較言語文化論A (2) 比較言語文化論B	(2) 日本の古典籍A (2) 日本の古典籍B (2) 日本民俗学A (2) 日本民俗学B		
		教育学科		生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ 特別支援教育概論Ⅱ 社会文化史(日本) 社会文化史(西洋)	(2) 特別支援教育概論Ⅰ (2) 女性問題と学習 (2) 家庭教育論 (2) 社会教育計画論Ⅰ (2) 社会教育計画論Ⅱ	(2) 比較社会論 (2) 比較政策論 (2) アメリカ思想史 (2) 社会教育課題研究Ⅰ (2) 社会教育課題研究Ⅱ	(2) 情報化と社会教育 (2) (2) (2) (2)	
			英語コミュニケーション学科	Special LectureⅠ (特別講義Ⅰ)	(2) Special LectureⅡ (特別講義Ⅱ)	(2) Special LectureⅢ (特別講義Ⅲ)	(2) Special LectureⅣ (特別講義Ⅳ)	
			経営学部	経営学科		経営財務論 投資決定論 国際経営基礎論 国際経営論	(2) 意思決定論 (2) 公共経営論 (2) 企業評価論 (2) コーポレートガバナンス論	(2) コンプライアンス経営論 (2) (2) (2)
					マーケティング学科		広告論 現代の広告 チェーンストア経営論 マーチャンダイジング論	(2) サービス・マーケティング論 (2) リレーションシップ・マーケティング (2) ファッション・マーケティング論 (2) 現代のファッション・マーケティング
	会計ファイナンス学科			経営監査論 会計監査論 経営分析論 証券投資論	(2) (2) (2) (2)			
	法学部	法律学科	法思想史A (2) 法思想史B	(2)	(2)			
				政治学原論A 政治学原論B	(2) (2)			
		企業法学科	法哲学A (2) 法哲学B	(2)	(2)			
	社会学部	社会学科	社会統計学 (2) 国際社会学	(2)		自然環境論講義 (2) 人口居住論講義 (2)		
		社会文化システム学科		日本社会文化論A 日本社会文化論B	(2) 犯罪社会学A (2) 犯罪社会学B	(2) (2)		
メディアコミュニケーション学科		メディアコミュニケーション学概論A メディアコミュニケーション学概論B	(2) マス・コミュニケーション概論A (2) マス・コミュニケーション概論B	(2) 情報学基礎論A (2) 情報学基礎論B	(2) (2)			
社会心理学科			社会心理学概論A 社会心理学概論B	(2) ストレスと健康の科学 (2)	(2)			
						産業組織心理学 (2) 環境心理学 (2)		
社会福祉学科			社会福祉発達史A 社会福祉発達史B	(2) (2)				
				社会保障論A 社会保障論B	(2) 公的扶助論 (2) 地域福祉論	(2) (2)		

第1部 他学部開放科目一覧（白山第2キャンパス）

学部	学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
国際地域学部	国際地域学科	地域と生活	(2) 旅と言語	(2) 言語と文化A	(2) 言語と文化B (2)	
		日本の文化と社会	(2) 世界の文化と社会	(2) ヨーロッパの歴史と文化	(2) 歴史と郷土文化 (2)	
	国際観光学科 (一般教養的科目)	国際政治学入門	(2) 観光の歴史	(2) 都市論	(2) 日本の近代化	(2)
		日本外交史	(2)			
		科学技術論	(2) 情報社会論	(2) 技術と産業の社会史	(2)	
	国際地域学科	アジアの地誌と文化	(2)	日本の地誌と文化 文化人類学	(2) ヨーロッパの地誌と文化A (2)	(2) ヨーロッパの地誌と文化B (2)
		国際協力論	(2)	都市地理学	(2) 社会システム論 I	(2)
		地域システム論	(2)	社会基盤論	(2) 地域データ分析 I	(2)
		社会システム哲学	(2)	地域産業論 I	(2) 現代社会論	(2)
		アジア・太平洋地域論	(2)	経済協力論	(2)	
		映像社会学	(2)	地域と国際交流	(2) プロジェクト実施・評価	(2) 農村地域開発論 (2)
		国際リビング事情	(2)	開発とNGO	(2) 国際技術移転	(2) 国際食糧問題論 (2)
		アジアの都市と交通	(2)	商品開発論	(2) 地域産業論 II	(2) コミュニティ開発論 (2)
		地域行政サービス	(2)	地域データ分析 II	(2) 経済地理学	(2) 外国地誌 (2)
		外国語で学ぶ専門科目 I	(2)	アジア経済論	(2) 社会システム論 II	(2) 安全と危機管理 (2)
		外国語で学ぶ専門科目 II	(2)	地域経済学 I	(2) 地域経済学 II	(2) まちづくり手法論 (2)
				都市計画	(2) 土地・住宅政策	(2) 企業法 (2)
				民事法	(2) 社会基盤計画・政策	(2) 福祉経済論 (2)
			地域金融論	(2)		
		国際環境計画入門	(2)	地域計画	(2) 水辺と環境	(2)
	エネルギー資源・環境管理	(2)	環境管理適正技術論	(2) 水と国土	(2) 国土利用と法律 (2)	
	環境システム論	(2)	環境産業論	(2) 資源管理計画	(2) 科学技術倫理 (2)	
	国際エネルギー資源論	(2)	都市環境論	(2)		
			情報計画法	(2) 情報マネジメント I	(2) 情報マネジメント II (2)	
国際観光学科			西洋美術史	(2)		
	歴史と観光	(2)	環太平洋ツーリズム論	(2) 観光行政・政策論	(2) 北米ツーリズム論 (2)	
	ホスピタリティ論	(2)	欧州ツーリズム論	(2) レストラン経営論	(2) ホテル開発論 (2)	
	観光マーケティング	(2)	コンベンション論	(2) 店舗設計・管理論	(2) エコツーリズム (2)	
			セレモニー経営論	(2) イベント企画論	(2) テーマパーク論 (2)	
			食品衛生論	(2)		
			顧客マネジメント	(2)		
			余暇・レクリエーション論	(2)		
			環日本海観光文化論	(2)		
			観光行動論	(2)		
			環境法規・政策論	(2)		
			観光調査・予測理論	(2) 地理情報システム	(2) 観光行動モデル (2)	
			観光経済学	(2) 地域財政と観光	(2) 国際観光情報論 (2)	
		経営コンサルタント論	(2)			

# 第1部 経済学科

## 授業のとり方・学び方

～入学から卒業まで～





# 履修にあたっての心構え

経済学科主任 児玉 俊介

現在日本経済は、リーマンショック以降続いているデフレーションに対処すると同時に、少子高齢化等による人口減少に対応した新しい経済体制を模索するという、困難な状況に直面しています。皆さんが実社会に巣立っていく際に求められるのは、そのような混沌とした状況における問題発見・解決能力と、自ら新しい社会を切り開いていくだけの構想力・適応力です。4年間の大学生活で、経済に関する基本的な知識や考え方をしっかりと身につけ、それをもとに先行き不透明な経済の動きを冷静にとらえ、柔軟に対応する能力を養っていくことが、社会を担う人材として成長するために不可欠です。

このような視点に立ち、経済学科では独自のカリキュラムを提供しています。1・2年次での学習課題は、大学生としての自主的・主体的な学び方を修得しつつ、実践的な応用能力の土台となる経済学の基礎理論を確実に習得することです。そして、3・4年次の課題は、経済に関する幅広い知識と洞察力を身につけるとともに、各自の問題意識にしたがって専門的な分野の学習を進め、スペシャリストとしての能力を育成していくことにあります。この分野では自分は専門家だ、と自負できる分野を作る努力を積み重ねてください。

こうした課題・目標を達成するため、経済学科では、履修方法に関して「理論研究重視型モデル」「実証研究重視型モデル」「政策研究重視型モデル」を設定しています。これを参考にして、授業科目を体系的な形で選択するように心がけて下さい。また、幅広い問題発見・解決能力を身につけるためには、経済学に偏ることのないさまざまな知識・教養・視点が必要です。そのために、専門科目だけでなく、一般教養的科目や他学部開放科目の履修も積極的・計画的に行うように努めてください。

経済学科におけるカリキュラムの特徴の1つとして、1年次から配置されているゼミナールがあります。1年次のゼミナールⅠでは、大学生としての勉強のしかた、レポートの作成方法、ディベートのしかたなどを学びます。それを土台にして、2年次以降のより専門的な学習が可能となります。一方、2年次以降のゼミナール（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）では、各担当教員の専門分野にそった形での指導が行われます。皆さんは、自分の問題意識にしたがってゼミナールを選択し、他のゼミ生や教員との議論やレポート作成を通じて、密度の濃い学習を進めることができます。そして、そのような専門的学習の成果を卒業論文にまとめ上げることが、ゼミナールにおける最大の目標となります。

以上、履修にあたっての基本的な心構えを述べましたが、履修登録に際しては、さまざまなルールや注意事項があります。まずこの『履修要覧』をしっかりと熟読した上で、履修ガイダンスをよく聞くことが大切です。そして、わからない点については、履修相談の機会を利用したり、ゼミナール担当教員の指導を受けたりして、くれぐれも登録ミスのないように注意してください。

長いようで短い4年間。それを有意義なものにする第一歩が、最初の履修のしかたにあると言っても過言ではありません。それぞれの問題意識にしたがってよく考え、主体的・計画的に時間割を作成してください。

皆さんが卒業時に、悔いのない学生生活だったと喜びで振り返ることができるよう、充実した4年間を過ごされるよう、心から期待し、応援しています。

経済学部第1部経済学科 授業科目一覧（教育課程表）

区分		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年					
専門科目 (74)	必修科目 (20)	ゼミナールⅠA (2) ゼミナールⅠB (2) 経済学入門A (2) 経済学入門B (2) 経済史ⅠA (2) 経済史ⅠB (2)	ミクロ経済学 (4) マクロ経済学 (4)							
	選択科目A (54)	1・2年次 配当科目	経済学入門演習A (1) 経済学入門演習B (1) 基礎数学A (1) 基礎数学B (1) 経済数学ⅠA (2) 経済数学ⅠB (2) 統計学ⅠA (2) 統計学ⅠB (2) 経済政策A (2) 経済政策B (2) コンピュータ・リテラシーⅠA (1) コンピュータ・リテラシーⅠB (1)	ミクロ経済学演習 (1) マクロ経済学演習 (1) 経済数学ⅡA (2) 経済数学ⅡB (2) 経済学史A (2) 経済学史B (2) 経済哲学A (2) 経済哲学B (2) 統計学ⅡA (2) 統計学ⅡB (2) 人口経済学A (2) 人口経済学B (2) 現代産業論A (2) 現代産業論B (2) 経済史ⅡA (2) 経済史ⅡB (2) ゼミナールⅡA (2) ゼミナールⅡB (2) 特講Ⅰ (2) 特講Ⅱ (2)						
			インターンシップ(2)							
			3・4年次 配当科目 (36)	ゲーム理論A (2) 応用ミクロ経済学A (2) 現代経済学A (2) 公共経済学A (2) 中級マクロ経済学ⅠA (2) 中級マクロ経済学ⅡA (2) 経済成長論A (2) 政治経済学A (2) 経済統計分析A (2) 計量経済学A (2) 都市経済学A (2) ファイナンス論A (2) 財政学A (2) 金融論A (2) 産業組織論A (2) 現代中小企業論A (2) 法と経済学A (2) 医療経済学A (2) ゼミナールⅢA (2) ゼミナールⅢB (2) 卒業論文 (4) 特講Ⅲ (2)	ゲーム理論B (2) 応用ミクロ経済学B (2) 現代経済学B (2) 公共経済学B (2) 中級マクロ経済学ⅠB (2) 中級マクロ経済学ⅡB (2) 経済成長論B (2) 政治経済学B (2) 経済統計分析B (2) 計量経済学B (2) 都市経済学B (2) ファイナンス論B (2) 財政学B (2) 金融論B (2) 産業組織論B (2) 現代中小企業論B (2) 法と経済学B (2) 医療経済学B (2) ゼミナールⅣA (2) ゼミナールⅣB (2) 卒業論文 (4) 特講Ⅳ (2)					
				国際経済 学科	国際関係論A (2) 国際関係論B (2)	国際経済システム論A (2) 国際経済システム論B (2) 日本経済論A (2) 日本経済論B (2)	国際貿易論A (2) 国際金融論A (2) 国際公共経済A (2) 世界の食料・農業経済A (2) 経済発展論A (2) 開発経済論A (2)	国際貿易論B (2) 国際金融論B (2) 国際公共経済B (2) 世界の食料・農業経済B (2) 経済発展論B (2) 開発経済論B (2)		
					総合政策 学科	比較文化社会 (2) フランスの言語と思想 (2) 自然環境の理解 (2) 自然と環境学 (2)	情報化社会と人間 (2) 情報倫理 (2) 現代の産業政策 (2) 公民連携と地域政策 (2)	生き方と働き方の経済 (2) 地球環境保全の理論・制度・政策 (2) 環境の制度と政策 (2) 情報と産業 (2) 少子高齢化の経済政策 (2) 社会政策A (2)	雇用・労働政策 (2) 地球温暖化防止の制度と政策 (2) 廃棄物政策 (2) 情報と企業 (2) 社会保障政策 (2) 社会政策B (2)	
						情報分野	コンピュータ・リテラシーⅡA (1) コンピュータ・リテラシーⅢA (1) コンピュータ・リテラシーⅣA (1)	コンピュータ・リテラシーⅡB (1) コンピュータ・リテラシーⅢB (1) コンピュータ・リテラシーⅣB (1)		
							教職科目 A		社会科教育論 (2)	職業指導A (2) 職業指導B (2) 商業科指導法Ⅰ (2) 商業科指導法Ⅱ (2)
				教職科目 B	日本史A (2) 外国史A (2) 地誌学A (2) 自然地理学A (2) 人文地理学A (2) 会計学総論A (2) 経営学総論A (2)	日本史B (2) 外国史B (2) 地誌学B (2) 自然地理学B (2) 人文地理学B (2) 会計学総論B (2) 経営学総論B (2)		倫理学概説A (2) 哲学概説A (2)	倫理学概説B (2) 哲学概説B (2)	
						民法A (2) 商法A (2)	民法B (2) 商法B (2)			

(注) 1. 教職科目Bは卒業単位にならないので注意すること。  
2. 括弧内の数字は単位数を示す。



# 第1部 経済学科

## 授業のとり方

- (1) 授業は全て半期で完結します。「講義要項」等で特別な指定（Aを修得してからBを修得すること等）がない限り、AないしBのみの履修が可能です。
- (2) 選択科目B(国際経済学科・総合政策学科開講科目)の履修方法については、各学科の「授業のとり方」を参照してください。
- (3) 「専門科目」と「一般教養的科目」で最低要件の102単位を修得した場合、卒業要件124単位までの22単位は選択科目A、選択科目B、一般教養的科目の中から自由に選択できます。
- (4) 卒業論文は、ゼミナールⅢA・ⅢBの両科目を修得済であり、かつゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを修得済であり、かつ当該セメスタにおいてゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを履修する、第8セメスタ以上の学生のみが履修できます。ただし、3年次卒業対象者はその限りではありません。

## 卒業要件

### 卒業要件

		授業科目区分		経済学科		
卒業要件 124	専門科目	必修科目		20		74
		選択科目A	1・2年次 配当科目	36	54	
			3・4年次 配当科目			
	選択科目B					
	一般教養的科目	教養科目 自然科学系科目 人文科学系科目 社会科学系科目 総合科目 留学支援科目 (スポーツ健康科学系科目)		12		28
他学部開放科目						
		語学系科目		16 (英語必修 1年8単位 2年8単位)		

第8セメスタ以上で、下記の(1)~(6)の修得条件をすべて満たした学生のみが卒業できます。

- (1) 専門科目の必修科目を20単位
- (2) 専門科目の選択科目Aを54単位以上  
そのうち3・4年配当科目を36単位以上
- (3) 一般教養的科目の語学系科目の必修科目を16単位
- (4) 一般教養的科目の教養科目、他学部開放科目から12単位以上
- (5) 学科教育課程表の科目（教職科目Bを除く）を124単位以上
- (6) 4年次最初のセメスタおよび最終セメスタで各1科目以上履修し、かつ4年次で専門科目を2科目以上修得すること。

※第8セメスタ終了時に卒業できなかった学生は、第9セメスタ以降終了時に卒業要件を満たせば、9月に卒業することができます。

経済学部第1部 経済学科履修モデル

履修モデル類型	理論研究重視型モデル	実証研究重視型モデル	政策研究重視型モデル
学習の目標	現実の社会現象を理解するための基礎的理論ツールを修得し、経済問題に対する総合的分析能力・提言能力を養う。	現実の経済データを統計的に処理して、経済理論の検証や政策課題の分析に応用する能力を育成する。	経済構造転換に基本トレンドを把握し、新たな政策的・戦略的課題を設定する問題発見・解決型人間を育成する。
1年次履修モデル 専門必修:12 語学必修:8 専門選択:16 一般教養選択:8 合計:44	<b>【専門必修】</b> ゼミナールⅠA(2)、ⅠB(2)、経済学入門A(2)、B(2)経済史ⅠA(2)、ⅠB(2) <b>【語学必修】</b> 英語演習Ⅰ(表現)A(2)、Ⅰ(表現)B(2)、英語演習Ⅰ(理解)A(2)、Ⅰ(理解)B(2)	<b>【専門選択科目】</b> 基礎数学A(1)、B(1) 経済数学ⅠA(2)、ⅠB(2) 経済学入門演習A(1)、B(1) 統計学ⅠA(2)、ⅠB(2) 経済政策A(2)、B(2) コンピュータ・リテラシーⅠA(1)、ⅠB(1)	<b>【専門選択科目】</b> 基礎数学A(1)、B(1) 経済数学ⅠA(2)、ⅠB(2) 経済学入門演習A(1)、B(1) 統計学ⅠA(2)、ⅠB(2) 経済政策A(2)、B(2) コンピュータ・リテラシーⅠA(1)、ⅠB(1)
2年次履修モデル 専門必修:8 語学必修:8 専門選択:20 一般教養選択:8 合計:44	<b>【専門必修】</b> マイクロ経済学(4)、マクロ経済学(4) <b>【語学必修】</b> 英語演習Ⅱ(表現)A(2)、Ⅱ(表現)B(2)、英語演習Ⅱ(理解)A(2)、Ⅱ(理解)B(2)	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅡA(2)、ⅡB(2) 経済数学ⅡA(2)、ⅡB(2) 統計学ⅡA(2)、ⅡB(2) マイクロ経済学演習(1) マクロ経済学演習(1) 経済哲学A(2)、B(2)など その他1科目2単位	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅡA(2)、ⅡB(2) 経済哲学A(2)、B(2) マイクロ経済学演習(1) マクロ経済学演習(1) 経済史ⅡA(2)、ⅡB(2) 現代産業論A(2)、B(2)など その他1科目2単位
3年次履修モデル 専門選択:32	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅢA(2)、ⅢB(2) ゲーム理論A(2)、B(2) 現代経済学A(2)、B(2) 応用マイクロ経済学A(2)、B(2) 中級マクロ経済学ⅠA(2)、ⅠB(2) 中級マクロ経済学ⅡA(2)、ⅡB(2) 経済成長論A(2)、B(2) 公共経済学A(2)、B(2)	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅢA(2)、ⅢB(2) 経済統計分析A(2)、B(2) 計量経済学A(2)、B(2) 金融論A(2)、B(2) 財政学A(2)、B(2) ファイナンス論A(2)、B(2) 都市経済学A(2)、B(2) 日本経済論A(2)、B(2)	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅢA(2)、ⅢB(2) 金融論A(2)、B(2) 財政学A(2)、B(2) 産業組織論A(2)、B(2) 現代中小企業論A(2)、B(2) 日本経済論A(2)、B(2) 国際経済システム論A(2)、B(2) 医療経済学A(2)、B(2)
4年次履修モデル 専門選択:12	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅣA(2)、ⅣB(2) 卒業論文(4) 法と経済学A(2)、B(2)など	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅣA(2)、ⅣB(2) 卒業論文(4) 現代中小企業論A(2)、B(2)など	<b>【専門選択科目】</b> ゼミナールⅣA(2)、ⅣB(2) 卒業論文(4) 法と経済学A(2)、B(2)など
取得総単位数	132 単位	132 単位	132 単位

注:このモデルでは、卒業に必要な単位数(124単位)を6~8単位上回っています。



# 国際経済学科

## 授業のとり方・学び方

～入学から卒業まで～





# 『履修にあたっての心構え』

国際経済学科主任 益田 安良

国際経済学科は、国際感覚を具えて世界を舞台に活躍できる人材を育成することを目的としています。経済社会のグローバル化は以前から指摘されてきましたが、今なおその進展は留まりません。このため、ビジネスにおいても生活においても、国際社会との接点は増える一方です。

国際社会で活躍するには、まずコミュニケーション能力が必要です。こうした観点から、国際経済学科では、英語ともう一つの外国語（独・仏・中国語）を1年次の必修科目とし、2年次以降も4年次まで学べるよう科目を配備しています。また、「TOEIC」「検定ドイツ語」「検定フランス語」といった科目を用意し、外国語能力を実際に社会に通用するレベルに高められるようにしています。さらに、英国ウォーリック大学での語学研修に対する単位認定や交換留学生の制度もありますので、これらを利用して実際に海外に出て外国語能力を試して欲しいと思っています。

同時に、経済学部の学生として、経済・社会の状況や仕組みを正確に知り、これを自分の頭で解明する能力を身につけて欲しいと考えています。その為には、経済理論、経済の歴史、そして現実の経済・社会の仕組みをしっかりと頭に入れなければなりません。こうした狙いから、1・2年次においてマクロ経済・ミクロ経済の理論と経済史を必修科目としています。また、経済理論と基礎的な数学の習得を目的とする演習科目を1・2年次に配しています。

経済理論・経済史を学びつつ、皆さんには国際経済・社会に対する幅広い視野をもってもらいたいと思います。そこで、1～4年次に多様な専門科目を設けています。まず、世界各地の経済・社会の動向を学ぶ「国際地域研究（アメリカ・ヨーロッパ・アジア・中国）」や「インターネット経済英語」を1年次から履修できるようにしています。2年次以降は、国際的な貿易・金融・投資、経済発展と開発、食料問題、国際公共経済等、応用分野の多様な科目を履修できます。各人の問題意識を下に4年間で体系的に履修し、理解を深めつつ見識を拡げてください。

経済を観察し、議論するには統計データを扱う必要があります。同時に、コンピュータも使いこなさねばなりません。この為、1年次から「経済データ分析」「コンピュータ・リテラシー」といった科目を配し、経済統計とコンピュータを扱う基礎能力を鍛える機会を提供しています。

さらに1・2年次を中心に、経済以外の社会科学や人文科学、自然科学などの一般教養の科目を学んでもらいます。国際社会で活躍するには、幅広い教養が求められるからです。

大学での学習は、受け身ではなく主体的に進めてもらわねばなりません。また、各分野の専門家である教員との交流を持つことが出来るのも大学の魅力です。それを実現しうる場がゼミナールです。皆さんには1年次からゼミナールに所属してもらいます。そして4年間ゼミナールに所属し、自らの専門分野を深めるとともに、プレゼンテーション・ディスカッション能力や文章力なども鍛えてもらいたいと思います。そして4年次にはその成果を卒業論文にまとめ、経済学部での学業の集大成としてください。

なお、卒業後の企業や官公庁への就職を見据え、「キャリアデザイン」「インターンシップ実習」といったキャリア形成支援科目も配備しました。各人の人生設計の助けとしてください。

国際経済への理解も、外国語能力の向上も、一朝一夕には実現しません。実現には、粘り強い学習の積み重ねが必要です。国際経済学科は、そうした継続的な学習の機会をふんだんに提供しています。これを有効利用できるか否かは、皆さん次第です。まず、この履修要覧をじっくり読み、4年間の学習計画を作ってみてください。

経済学部第1部国際経済学科 授業科目一覧（教育課程表）

区分		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	
専 門 科 目 (68)	必修科目 (22)	ゼミナールⅠA (2) ゼミナールⅠB (2) 経済学入門A (2) 経済学入門B (2) 経済学入門演習A (1) 経済学入門演習B (1)	ミクロ経済学A (2) ミクロ経済学B (2) マクロ経済学A (2) マクロ経済学B (2) 経済史ⅡA (2) 経済史ⅡB (2)			
	選択科目 A (46)	インターネット経済英語A (2) インターネット経済英語B (2) 経済データ分析A (2) 経済データ分析B (2) 国際関係論A (2) 国際関係論B (2) 国際地域研究(中国)A (2) 国際地域研究(中国)B (2) 国際地域研究(アジア)A (2) 国際地域研究(アジア)B (2) 国際地域研究(ヨーロッパ)A (2) 国際地域研究(ヨーロッパ)B (2) 国際地域研究(アメリカ)A (2) 国際地域研究(アメリカ)B (2) コンピュータ・リテラシーⅠA (1) コンピュータ・リテラシーⅠB (1) キャリアデザイン (2)	ゼミナールⅡA (2) ゼミナールⅡB (2) ミクロ・マクロ経済学演習A (1) 国際経済システム論A (2) 国際貿易論B (2) 現代金融論A (2) Multinational Corporations A (2) 多国籍企業論A (2) 国際金融論A (2) 国際公共経済A (2) 日本経済論A (2) 統計分析論A (2) 世界の食料・農業経済A (2) 開発経済論A (1) 経済発展論A (1) 企業の発展と社会A (2) ファイナンス分析A (2) 国際リスク管理論A (2) 国際マクロ経済A (2) 国際財務会計論A (2) インターンシップ実習A (1)	ゼミナールⅢA (2) ゼミナールⅢB (2) ミクロ・マクロ経済学演習B (1) 国際経済システム論B (2) 国際貿易論B (2) 現代金融論B (2) Multinational Corporations B (2) 多国籍企業論B (2) 国際金融論B (2) 国際公共経済B (2) 日本経済論B (2) 統計分析論B (2) 世界の食料・農業経済B (2) 開発経済論B (2) 経済発展論B (2) 企業の発展と社会B (2) ファイナンス分析B (2) 国際リスク管理論B (2) 国際マクロ経済B (2) 国際財務会計論B (2) インターンシップ実習B (1)	ゼミナールⅣA (2) ゼミナールⅣB (2) 卒業論文 (4)	
専 門 科 目 (68)	選択科目 B	経済学科	経済史ⅠA (2) 経済史ⅠB (2) 経済数学ⅠA (2) 経済数学ⅠB (2) 経済政策A (2) 経済政策B (2)	経済数学ⅡA (2) 経済数学ⅡB (2) 経済学史A (2) 経済学史B (2) 経済哲学A (2) 経済哲学B (2) 人口経済学A (2) 人口経済学B (2) 現代産業論A (2) 現代産業論B (2)	ゲーム理論A (2) 応用ミクロ経済学A (2) 現代経済学A (2) 公共経済学A (2) 中級マクロ経済学ⅠA (2) 中級マクロ経済学ⅡA (2) 経済成長論A (2) 政治経済学A (2) 経済統計分析A (2) 計量経済学A (2) 都市経済学A (2) 産業組織論A (2) 現代中小企業論A (2) 法と経済学A (2) 医療経済学A (2)	ゲーム理論B (2) 応用ミクロ経済学B (2) 現代経済学B (2) 公共経済学B (2) 中級マクロ経済学ⅠB (2) 中級マクロ経済学ⅡB (2) 経済成長論B (2) 政治経済学B (2) 経済統計分析B (2) 計量経済学B (2) 都市経済学B (2) 産業組織論B (2) 現代中小企業論B (2) 法と経済学B (2) 医療経済学B (2)
		総合政策 学科	比較文化社会 (2) 比較都市計画 (2) 自然環境の理解 (2) 自然と環境学 (2) マルチメディアと情報化社会 (2) デジタルコンテンツと経済 (2) 情報化社会と人間 (2) 情報倫理 (2)	国の財政 (2) 地方の財政 (2) 少子高齢化の経済政策 (2) 社会保障政策 (2) 社会政策A (2) 社会政策B (2)	現代の産業政策 (2) 公民連携と地域政策 (2) 市民社会と国家 (2) 教育・家族・雇用システム (2) 生き方と働き方の経済 (2) 雇用・労働政策 (2)	地球環境保全の理論・制度・政策 (2) 地球温暖化防止の制度と政策 (2) 情報と産業 (2) 情報と企業 (2) 環境の制度と政策 (2) 廃棄物政策 (2)
		情報分野		コンピュータ・リテラシーⅡA (1) コンピュータ・リテラシーⅡB (1)	コンピュータ・リテラシーⅢA (1) コンピュータ・リテラシーⅢB (1)	コンピュータ・リテラシーⅣA (1) コンピュータ・リテラシーⅣB (1)
		教職科目A		社会科教育論 (2)	職業指導A (2) 職業指導B (2) 商業科指導法Ⅰ (2) 商業科指導法Ⅱ (2)	
専 門 科 目 (68)	教職科目 B	日本史A (2) 外国史A (2) 地誌学A (2) 自然地理学A (2) 人文地理学A (2) 会計学総論A (2) 経営学総論A (2)	日本史B (2) 外国史B (2) 地誌学B (2) 自然地理学B (2) 人文地理学B (2) 会計学総論B (2) 経営学総論B (2)	倫理学概説A (2) 哲学概説A (2)	倫理学概説B (2) 哲学概説B (2)	
		民法A (2) 商法A (2)	民法B (2) 商法B (2)			

(注) 1. 教職科目Bは卒業単位にならないので注意すること。  
2. 括弧内の数字は単位数を示す。

経済学部第1部国際経済学科 授業科目一覧 (教育課程表)

区分		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年			
一般教養的科目 (40)	教養科目	選択科目 (12)	自然科学系科目	自然の数理A (2) 自然の数理B (2) 生活の科学A (2) エネルギーの科学A (2) 物質の科学A (2) 環境の科学A (2) 地球の科学A (2) 天文学A (2) 日本事情 I A(留学生用) (2)	自然誌A (2) 物理学実験講義A (2) 生物学実験講義A (2) 化学実験講義A (2) 地球科学実習講義A (2) 数理・情報実習講義A (2) 天文学実習講義A (2) 自然科学概論A (2) 自然科学演習A (2)	自然誌B (2) 物理学実験講義B (2) 生物学実験講義B (2) 化学実験講義B (2) 地球科学実習講義B (2) 数理・情報実習講義B (2) 天文学実習講義B (2) 自然科学概論B (2) 自然科学演習B (2)		
			人文科学系科目	哲学A (2) 哲学史A (2) 倫理学基礎論A (2) 応用倫理学A (2) 論理学A (2) 科学思想史A (2) 美術史A (2) 音楽学A (2) 宗教学 I A (2) 宗教学 II A (2) 国際教育論A (2) 多文化共生論A (2) 地球倫理A (2) 百人一首の文化史A (2)	哲学B (2) 哲学史B (2) 倫理学基礎論B (2) 応用倫理学B (2) 論理学B (2) 科学思想史B (2) 美術史B (2) 音楽学B (2) 宗教学 I B (2) 宗教学 II B (2) 国際教育論B (2) 多文化共生論B (2) 地球倫理B (2) 百人一首の文化史B (2)	日本の昔話A (2) 日本文学文化と風土A (2) 日本の詩歌A (2) 西欧文学A (2) 現代日本文学A (2) 地域文化研究 I A (2) 地域文化研究 II A (2) 地域文化研究 III A (2) 地域史(日本)A (2) 地域史(東洋)A (2) 地域史(西洋)A (2) 歴史の諸問題A (2) 日本事情 II A(留学生用) (2)	日本の昔話B (2) 日本文学文化と風土B (2) 日本の詩歌B (2) 西欧文学B (2) 現代日本文学B (2) 地域文化研究 I B (2) 地域文化研究 II B (2) 地域文化研究 III B (2) 地域史(日本)B (2) 地域史(東洋)B (2) 地域史(西洋)B (2) 歴史の諸問題B (2) 日本事情 II B(留学生用) (2)	
			社会科学系科目	基礎経営学 (2) ベーシック・マーケティング (2) 基礎会計学 (2) 法学A (2) 日本国憲法 (2) 政治学A (2)	経営学入門 (2) 流通入門 (2) ビジネス社会と会計 (2) 法学B (2) 政治学B (2)	社会学A (2) 人類学A (2) 地理学A (2) 国際比較論A (2) 心理学の基礎 (2) 日本事情 III A(留学生用) (2)	社会学B (2) 人類学B (2) 地理学B (2) 国際比較論B (2) 社会適応の心理学 (2) 日本事情 III B(留学生用) (2)	
			総合科目	総合 I A (2) 総合 II A (2) 総合 III A (2) 総合 IV A (2) 総合 V A (2) 総合 VI A (2)	総合 I B (2) 総合 II B (2) 総合 III B (2) 総合 IV B (2) 総合 V B (2) 総合 VI B (2)	総合 VII A (2) 総合 VIII A (2) 総合 IX A (2) 全学総合 I A (2) 全学総合 II A (2)	総合 VII B (2) 総合 VIII B (2) 総合 IX B (2) 全学総合 I B (2) 全学総合 II B (2)	
			留学支援科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4)		Special Course in Advanced TOEFL II (4)		
			スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A (1) スポーツ健康科学実技 II A (1) スポーツ健康科学実技 III A (1)	スポーツ健康科学実技 I B (1) スポーツ健康科学実技 II B (1) スポーツ健康科学実技 III B (1)	スポーツ健康科学講義 I (2) スポーツ健康科学講義 II A (2) スポーツ健康科学講義 II B (2)	スポーツ健康科学実技 I (2) スポーツ健康科学実技 II (2) スポーツ健康科学実技 III (2)	
			他学部開放科目	「第1部他学部開放科目一覧」(P.35~P.36) 参照				
			語学系科目	必修科目 (8)	英語演習 I (表現)A (2) 英語演習 I (表現)B (2) 英語演習 I (理解)A (2) 英語演習 I (理解)B (2)			
					ドイツ語演習 I (文法)A (2) ドイツ語演習 I (文法)B (2) ドイツ語演習 I (総合)A (2) ドイツ語演習 I (総合)B (2) フランス語演習 I (文法)A (2) フランス語演習 I (文法)B (2) フランス語演習 I (総合)A (2) フランス語演習 I (総合)B (2) 中国語演習 I (文法)A (2) 中国語演習 I (文法)B (2) 中国語演習 I (総合)A (2) 中国語演習 I (総合)B (2)	英語演習 II (表現)A (2) 英語演習 II (表現)B (2) 英語演習 II (理解)A (2) 英語演習 II (理解)B (2) ドイツ語演習 II (文法)A (2) ドイツ語演習 II (文法)B (2) ドイツ語演習 II (総合)A (2) ドイツ語演習 II (総合)B (2) フランス語演習 II (文法)A (2) フランス語演習 II (文法)B (2) フランス語演習 II (総合)A (2) フランス語演習 II (総合)B (2) 中国語演習 II (文法)A (2) 中国語演習 II (文法)B (2) 中国語演習 II (総合)A (2) 中国語演習 II (総合)B (2)	英語演習 III A (2) 英語演習 III B (2)	
					(上記の3カ国語から1カ国語8単位選択必修)	中国語演習 II (文法)A (2) 中国語演習 II (文法)B (2) 中国語演習 II (総合)A (2) 中国語演習 II (総合)B (2)		
	(上記の4カ国語から1年次に履修した言語のうち1カ国語8単位選択必修)							
選択科目 (16)	TOEIC(基礎)A (2) TOEIC(基礎)B (2)	TOEIC(標準)A (2) TOEIC(標準)B (2)						
		検定ドイツ語A (2) 検定ドイツ語B (2) 時事ドイツ語A (2) 時事ドイツ語B (2)		検定フランス語A (2) 検定フランス語B (2) 中国語演習 III A (2) 中国語演習 III B (2)	時事フランス語A (2) 時事フランス語B (2) 中国語演習上級A (2) 中国語演習上級B (2)			
	(留学生用科目)	(留学生用科目)						
	日本語 I AA (1) 日本語 I AB (1) 日本語 I BA (1) 日本語 I BB (1)	日本語と日本社会A (2) 日本語と日本社会B (2) 日本語と日本文化A (2) 日本語と日本文化B (2)						

## 国際経済学科

### 授業のとり方

- (1) 授業は全て半期で完結します。「講義要項」等で特別な指定（Aを修得してからBを修得すること等）がない限り、AないしBのみの履修が可能です。
- (2) 選択科目B（経済学科・総合政策学科開講科目）の履修方法については、各学科の「授業のとり方」を参照してください。
- (3) 「専門科目」と「一般教養的科目」で最低要件の108単位を修得した場合、卒業要件124単位までの16単位は選択科目A、選択科目B、一般教養的科目の中から自由に選択できます。
- (4) 卒業論文は、ゼミナールⅢA・ⅢBの両科目を修得済みであり、かつゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを修得済みであり、かつ当該セメスタにおいてゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを履修する、第8セメスタ以上の学生のみが履修できます。ただし、3年次卒業対象者はその限りではありません。

### 卒業要件

#### 卒業要件（数字は単位数を示す）

		授業科目区分	国際経済学科	
卒業要件 124	専門科目	必修科目	22	68
		選択科目A	46	
		選択科目B		
	一般教養的科目	教養科目 自然科学系科目 人文科学系科目 社会科学系科目 総合科目 留学支援科目 （スポーツ健康科学系科目）	12	40
他学部開放科目				
語学系科目		24 1年次：「英語演習」必修8単位 「ドイツ語演習」・「フランス語演習」・「中国語演習」から1カ国語選択必修8単位 2年次：1年で履修した言語の中から1カ国語選択必修8単位 上記を含み24単位以上		

第8セメスタ以上で、下記の(1)~(5)の修得条件をすべて満たした学生のみが卒業できます。

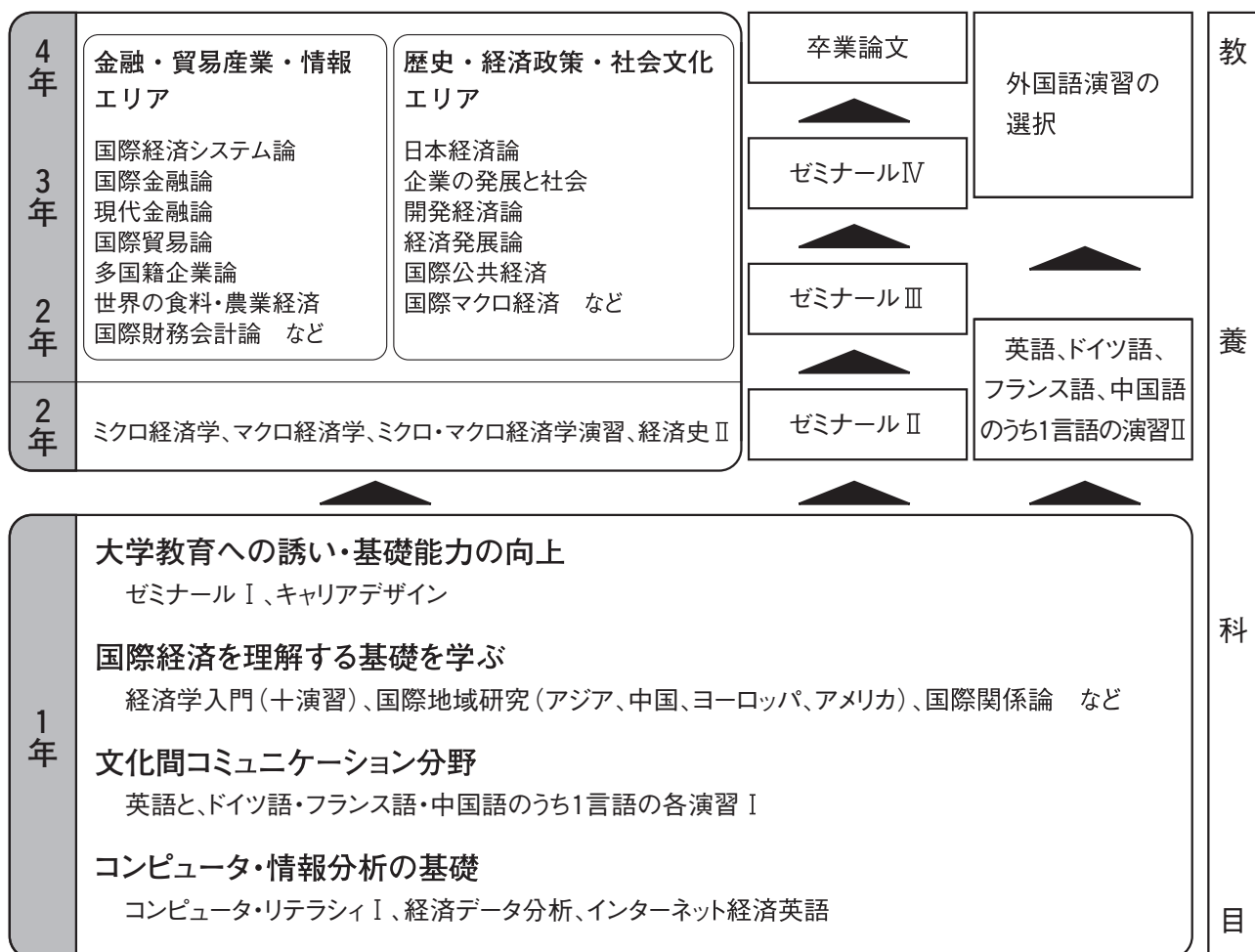
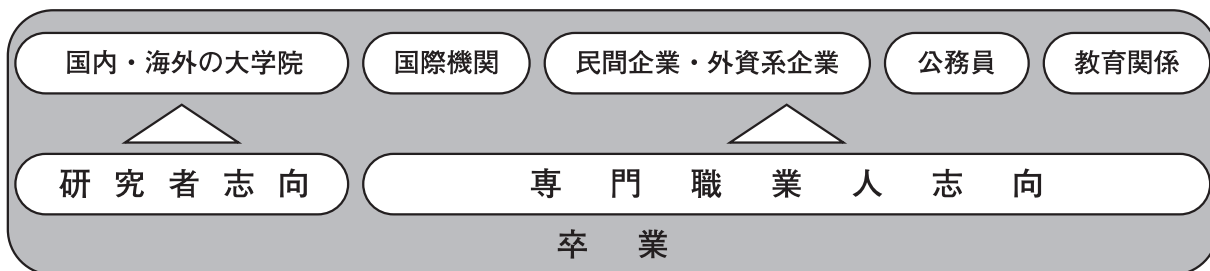
- (1) 専門科目の必修科目を22単位
- (2) 専門科目の選択科目Aを46単位以上
- (3) 一般教養的科目は合計40単位以上。うち、教養科目・他学部開放科目から12単位以上、語学系科目から24単位以上。なお、語学系科目は1年次必修8単位・選択必修8単位、2年次選択必修8単位の合計24単位以上
- (4) 学科教育課程表の科目（教職科目Bを除く）を124単位以上
- (5) **4年次最初のセメスタおよび最終セメスタで各1科目以上履修し、かつ4年次で専門科目を2科目以上修得すること。**

※第8セメスタ終了時に卒業できなかった学生は、第9セメスタ以降終了時に卒業要件を満たせば、9月に卒業することができます。

# 国際経済学科

## 科目展開チャート

- 経済・社会のあらゆる面が進むグローバル化。
- グローバル経済の本質を学び、これに対応する能力をみがく。
- 外国語、コンピュータなど社会に出て役立つ能力を身につける。



国際経済学科に入学



# 総合政策学科

## 授業のとり方・学び方

～入学から卒業まで～





# 総合政策学科で学ぶにあたって

総合政策学科主任 門間 麻紀

## 総合政策学科の目指すもの

現代日本の経済社会は、かつてないほどのスピードで変化しています。その背景には、情報化による企業や消費者行動の変質、少子高齢化の進展による人口構造の変化、地球環境問題の深刻化などがあります。これらの問題の本質を探るべく、前身の社会経済システム学科を改称して2008年にできたのが総合政策学科です。学科の目標は、経済学をベースに幅広い視点で社会問題を考え、政策立案することのできる人材を育てることです。この目標達成のため、学科では少人数教育や実践的授業、様々な今日的な社会問題に関する講義などを行っています。総合政策学科のカリキュラムを大いに活用し、日本の経済社会に対する深い洞察力を会得するとともに、実務の場で課題解決に向けた企画立案・制度設計を行うことのできる能力を身につけて下さい。

## 1年次カリキュラム —基礎を固める—

1年目のカリキュラムは、基礎を固めるための必修科目が中心です。「ゼミナールⅠ」では、大学で勉強する上で必要となるノートテイキングの方法に始まり、文章の書き方、情報収集、プレゼンテーションの方法、ディベート等について学びます。これらのスキルは大学のみならず社会人になってからも必須のものです。

この他の1年目必修科目は、経済を学ぶ土台となる「ミクロ・マクロ経済入門」とその「入門演習」、学科名でもある総合政策への入り口となる「総合政策入門」、それに、学科の全教員、及び企業からの外部講師がオムニバス形式でそれぞれの専門領域について講義をする「現代社会経済入門」となっています。「現代社会経済入門」で様々な分野の話を開く中で、これから自分がどの分野を中心に勉強したいか、じっくりと考えましょう。

選択科目は、コンピュータの基本的操作を学ぶ「コンピュータ・リテラシー」、経済学を学ぶために必要な数学の知識を得るための「経済学の数学入門」が1学年配当です。この他、1年次から取ることのできる選択科目としては、「マルチメディアと情報化社会」をはじめとした情報分野の科目やインターネットを利用して英語を学ぶ「インターネット英語」など、特色のあるものが揃っています。

## 2年次～4年次カリキュラム —専門分野を探求する—

2年次には必修科目である「マクロ経済」、「ミクロ経済」において、経済学の基本的な考え方を定着させます。その上で、各自が興味を持った分野を中心に、卒業まで様々な専門選択科目を取ることになります。科目選択の幅も2年次にはぐんと広がります。総合政策学科で特に豊富に提供されているのは、情報、環境、福祉・社会政策などの分野の科目で、現代日本の抱えている様々な問題について、最新の情報を吸収することができます。この他、知識のベースを広げるために、経済分野以外の一般教養的科目を取ることにも求められます。

総合政策学科のもう一つの特色は4年次までゼミが必修となっていることです。「ゼミナールⅡ～Ⅳ」では、専門分野のより深い内容を少人数で学びます。ディベートに特化したゼミ、実習中心のゼミ、プレゼンテーションに力を入れているゼミなど、様々な特色を持つゼミの中から、自分に適したものを選びましょう。4年次には、ゼミ毎に大学生活の集大成として「卒業論文」に取り組みます。

## そしてその先へ

大学は主体的に勉強をする場です。経済学部が提供している海外研修に参加して語学力を磨くもよし、学科の提供している教職科目を選択して高校の「情報」科目の教員免許を取るもよし、「社会活動実習」をきっかけにボランティア活動に励むもよし、学ぶことのできる内容は様々です。自分が何をしたいのか、どのような分野に興味があるのか、真剣に考えて4年間取り組めば、その先の道も自ずと開けてくるはずで、学科としても最大限サポートしていきますので、充実した4年間を送って下さい。

経済学部第1部総合政策学科 授業科目一覧（教育課程表）

区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	
必修科目 (38)	ゼミナールⅠA (2) ゼミナールⅠB (2) ミクロ・マクロ経済入門A (2) ミクロ・マクロ経済入門B (2) ミクロ・マクロ経済入門演習A (1) ミクロ・マクロ経済入門演習B (1) 現代社会経済入門A (2) 現代社会経済入門B (2) 総合政策入門A (2) 総合政策入門B (2)	ゼミナールⅡA (2) ゼミナールⅡB (2) ミクロ経済 (4) マクロ経済 (4)	ゼミナールⅢA (2) ゼミナールⅢB (2)	ゼミナールⅣA (2) ゼミナールⅣB (2)	
	経済学の数学入門 (2) コンピュータ・リテラシーⅠA (1) コンピュータ・リテラシーⅠB (1)	ミクロ経済演習 (1) マクロ経済演習 (1)		卒業論文 (4)	
選択科目A (46)	データ分析 (4) 市民社会と国家 (2) マルチメディアと情報化社会 (2) 比較文化社会 (2) 自然環境の理解 (2) インターネット英語A (2)	社会経済活動実習 (2) 教育・家族・雇用システム (2) デジタルコンテンツと経済 (2) フランスの言語と思想 (2) 自然と環境学 (2) インターネット英語B (2)	情報と職業A (2) 比較都市計画 (2) 情報化社会と人間 (2) ヨーロッパの言語と文化Ⅰ (2) 比較文化：グローバル教育 (2) 特別講義Ⅰ（政治科学） (2)	情報と職業B (2) (2) 情報倫理 (2) ヨーロッパの言語と文化Ⅱ (2) 健康科学 (2) 特別講義Ⅱ（社会調査） (2)	
		国の財政 (2) 地方の財政 (2) 現代の産業政策 (2) 公民連携と地域政策 (2) 行政システム (2) 民営化と規制改革 (2) 政策評価 (2) 情報メディア (2) 政策デザイン (2) 生き方と働き方の経済 (2) 雇用・労働政策 (2)	地球環境保全の理論・制度・政策 (2) 地球温暖化防止の制度と政策 (2) 環境の制度と政策 (2) 廃棄物政策 (2) 情報政策 (2) 知的財産政策論 (2) マルチメディア表現実習A (2) マルチメディア表現実習B (2) 情報と産業 (2) 情報と企業 (2)	少子高齢化の経済政策 (2) 社会保障政策 (2) 社会的企業 (2) 非営利組織 (2) 社会政策A (2) 社会政策B (2) 特別講義Ⅲ（公共選択論） (1) 特別講義Ⅳ（計量政策学） (2) (2)	
専門科目 (84)	経済学科	経済史ⅠA (2) 経済史ⅠB (2) 経済数学ⅠA (2) 経済数学ⅠB (2) 経済政策A (2) 経済政策B (2)	経済数学ⅡA (2) 経済数学ⅡB (2) 経済学史A (2) 経済学史B (2) 経済哲学A (2) 経済哲学B (2) 人口経済学A (2) 人口経済学B (2) 現代産業論A (2) 現代産業論B (2)	ゲーム理論A (2) 応用ミクロ経済学A (2) 現代経済学A (2) 公共経済学A (2) 中級マクロ経済学ⅠA (2) 中級マクロ経済学ⅡA (2) 経済成長論A (2) 政治経済学A (2) 経済統計分析A (2) 計量経済学A (2) 都市経済学A (2) 産業組織論A (2) 現代中小企業論A (2) 法と経済学A (2) 医療経済学A (2)	ゲーム理論B (2) 応用ミクロ経済学B (2) 現代経済学B (2) 公共経済学B (2) 中級マクロ経済学ⅠB (2) 中級マクロ経済学ⅡB (2) 経済成長論B (2) 政治経済学B (2) 経済統計分析B (2) 計量経済学B (2) 都市経済学B (2) 産業組織論B (2) 現代中小企業論B (2) 法と経済学B (2) 医療経済学B (2)
		国際関係論A (2) 国際関係論B (2) 国際地域研究(中国)A (2) 国際地域研究(中国)B (2) 国際地域研究(アジア)A (2) 国際地域研究(アジア)B (2) 国際地域研究(ヨーロッパ)A (2) 国際地域研究(ヨーロッパ)B (2) 国際地域研究(アメリカ)A (2) 国際地域研究(アメリカ)B (2)	経済史ⅡA (2) 国際経済システム論A (2) 国際貿易論A (2) 現代金融論A (2) 多国籍企業論A (2) 国際金融論A (2) 国際公共経済A (2) 日本経済論A (2) 世界の食料・農業経済A (2) 開発経済論A (2) 経済発展論A (2) 企業の発展と社会A (2) ファイナンス分析A (2) 国際リスク管理論A (2) 国際マクロ経済A (2) 国際財務会計論A (2)	経済史ⅡB (2) 国際経済システム論B (2) 国際貿易論B (2) 現代金融論B (2) 多国籍企業論B (2) 国際金融論B (2) 国際公共経済B (2) 日本経済論B (2) 世界の食料・農業経済B (2) 開発経済論B (2) 経済発展論B (2) 企業の発展と社会B (2) ファイナンス分析B (2) 国際リスク管理論B (2) 国際マクロ経済B (2) 国際財務会計論B (2)	
	情報分野	コンピュータ・リテラシーⅡA (1) コンピュータ・リテラシーⅢA (1) コンピュータ・リテラシーⅣA (1)	コンピュータ・リテラシーⅡB (1) コンピュータ・リテラシーⅢB (1) コンピュータ・リテラシーⅣB (1)		
	教職科目A	社会科教育論 (2)			
教職科目B	日本史A (2) 外国史A (2) 地誌学A (2) 自然地理学A (2) 人文地理学A (2)	日本史B (2) 外国史B (2) 地誌学B (2) 自然地理学B (2) 人文地理学B (2)	倫理学概説A (2) 哲学概説A (2)	倫理学概説B (2) 哲学概説B (2)	
		民法A (2) 商法A (2)	民法B (2) 商法B (2)		

(注) 1. 教職科目Bは卒業単位にならないので注意すること。  
2. 括弧内の数字は単位数を示す。

経済学部第1部総合政策学科 授業科目一覧 (教育課程表)

区分		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	
一般教養的科目 (24)	教養科目	自然科学系科目	自然の数理A (2)	自然の数理B (2)	自然誌A (2)	自然誌B (2)
			生活の科学A (2)	生活の科学B (2)	物理学実験講義A (2)	物理学実験講義B (2)
			エネルギーの科学A (2)	エネルギーの科学B (2)	生物学実験講義A (2)	生物学実験講義B (2)
			物質の科学A (2)	物質の科学B (2)	化学実験講義A (2)	化学実験講義B (2)
			環境の科学A (2)	環境の科学B (2)	地球科学実習講義A (2)	地球科学実習講義B (2)
			地球の科学A (2)	地球の科学B (2)	数理・情報実習講義A (2)	数理・情報実習講義B (2)
			生物学A (2)	生物学B (2)	天文学実習講義A (2)	天文学実習講義B (2)
			天文学A (2)	天文学B (2)	自然科学概論A (2)	自然科学概論B (2)
			日本事情 I A(留学生用) (2)	日本事情 I B(留学生用) (2)	(2)	(2)
				自然科学演習A (2)	自然科学演習B (2)	(2)
	人文科学系科目	哲学A (2)	哲学B (2)	日本の昔話A (2)	日本の昔話B (2)	
		哲学史A (2)	哲学史B (2)	日本文学文化と風土A (2)	日本文学文化と風土B (2)	
		倫理学基礎論A (2)	倫理学基礎論B (2)	日本の詩歌A (2)	日本の詩歌B (2)	
		応用倫理学A (2)	応用倫理学B (2)	西欧文学A (2)	西欧文学B (2)	
		論理学A (2)	論理学B (2)	現代日本文学A (2)	現代日本文学B (2)	
		科学思想史A (2)	科学思想史B (2)	地域文化研究 I A (2)	地域文化研究 I B (2)	
		美術史A (2)	美術史B (2)	地域文化研究 II A (2)	地域文化研究 II B (2)	
		音楽学A (2)	音楽学B (2)	地域文化研究 III A (2)	地域文化研究 III B (2)	
		宗教学 I A (2)	宗教学 I B (2)	地域史(日本)A (2)	地域史(日本)B (2)	
		宗教学 II A (2)	宗教学 II B (2)	地域史(東洋)A (2)	地域史(東洋)B (2)	
	国際教育論A (2)	国際教育論B (2)	地域史(西洋)A (2)	地域史(西洋)B (2)		
	多文化共生論A (2)	多文化共生論B (2)	(2)	歴史の諸問題B (2)		
	地球倫理A (2)	地球倫理B (2)	(2)	日本事情 II B(留学生用) (2)		
	百人一首の文化史A (2)	百人一首の文化史B (2)	(2)	(2)		
社会科学系科目	基礎経営学 (2)	経営学入門 (2)	社会学A (2)	社会学B (2)		
	ベーシック・マーケティング (2)	流通入門 (2)	人類学A (2)	人類学B (2)		
	基礎会計学 (2)	ビジネス社会と会計 (2)	地理学A (2)	地理学B (2)		
	法学A (2)	法学B (2)	国際比較論A (2)	国際比較論B (2)		
	日本国憲法 (2)	(2)	心理学の基礎 (2)	社会適応の心理学 (2)		
	政治学A (2)	政治学B (2)	日本事情 III A(留学生用) (2)	日本事情 III B(留学生用) (2)		
	総合 I A (2)	総合 I B (2)	総合 VII A (2)	総合 VII B (2)		
	総合 II A (2)	総合 II B (2)	総合 VIII A (2)	総合 VIII B (2)		
	総合 III A (2)	総合 III B (2)	総合 IX A (2)	総合 IX B (2)		
	総合 IV A (2)	総合 IV B (2)	全学総合 I A (2)	全学総合 I B (2)		
総合 V A (2)	総合 V B (2)	全学総合 II A (2)	全学総合 II B (2)			
総合 VI A (2)	総合 VI B (2)	(2)	(2)			
留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4)		Special Course in Advanced TOEFL II (4)		
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A (1)	スポーツ健康科学実技 I B (1)	スポーツ健康科学講義 I (2)	(2)	
他学部開放科目		スポーツ健康科学実技 II A (1)	スポーツ健康科学実技 II B (1)	スポーツ健康科学講義 II A (2)	(2)	
		スポーツ健康科学実技 III A (1)	スポーツ健康科学実技 III B (1)	スポーツ健康科学講義 II B (2)	スポーツ健康科学演習 I (2)	
必修科目 (16)	語学系科目	「第1部他学部開放科目一覧」(P.35~P.36)参照				
		英語演習 I (表現)A (2)	英語演習 II (表現)A (2)	(2)	(2)	
		英語演習 I (表現)B (2)	英語演習 II (表現)B (2)	(2)	(2)	
		英語演習 I (理解)A (2)	英語演習 II (理解)A (2)	(2)	(2)	
		英語演習 I (理解)B (2)	英語演習 II (理解)B (2)	(2)	(2)	
				英語演習 III A (2)	英語演習 III B (2)	
		TOEIC(基礎)A (2)	TOEIC(標準)A (2)	(2)	(2)	
		TOEIC(基礎)B (2)	TOEIC(標準)B (2)	(2)	(2)	
		ドイツ語演習 I (文法)A (2)	ドイツ語演習 II (文法)A (2)	(2)	(2)	
		ドイツ語演習 I (文法)B (2)	ドイツ語演習 II (文法)B (2)	(2)	(2)	
		ドイツ語演習 I (総合)A (2)	ドイツ語演習 II (総合)A (2)	(2)	(2)	
		ドイツ語演習 I (総合)B (2)	ドイツ語演習 II (総合)B (2)	(2)	(2)	
			検定ドイツ語A (2)	時事ドイツ語A (2)	時事ドイツ語B (2)	
			検定ドイツ語B (2)	(2)	(2)	
		フランス語演習 I (文法)A (2)	フランス語演習 II (文法)A (2)	(2)	(2)	
		フランス語演習 I (文法)B (2)	フランス語演習 II (文法)B (2)	(2)	(2)	
	フランス語演習 I (総合)A (2)	フランス語演習 II (総合)A (2)	(2)	(2)		
	フランス語演習 I (総合)B (2)	フランス語演習 II (総合)B (2)	(2)	(2)		
		検定フランス語A (2)	時事フランス語A (2)	時事フランス語B (2)		
		検定フランス語B (2)	(2)	(2)		
	中国語演習 I (文法)A (2)	中国語演習 II (文法)A (2)	中国語演習 III A (2)	中国語演習 III B (2)		
	中国語演習 I (文法)B (2)	中国語演習 II (文法)B (2)	(2)	(2)		
	中国語演習 I (総合)A (2)	中国語演習 II (総合)A (2)	中国語演習上級A (2)	中国語演習上級B (2)		
	中国語演習 I (総合)B (2)	中国語演習 II (総合)B (2)	(2)	(2)		
(留学生用科目)	(留学生用科目)					
日本語 I AA (1)	日本語と日本社会A (2)	(2)	(2)			
日本語 I AB (1)	日本語と日本社会B (2)	(2)	(2)			
日本語 I BA (1)	日本語と日本文化A (2)	(2)	(2)			
日本語 I BB (1)	日本語と日本文化B (2)	(2)	(2)			

## 総合政策学科

### 授業のとり方

- (1) 授業は全て半期で完結します。科目により、特別な指定（科目1を履修してから科目2を履修すること等）がされている場合がありますので、「講義要項」等で授業のとり方や、内容を必ず確認するようにしてください。
- (2) 選択科目B（経済学科・国際経済学科開講科目）の履修方法については、各学科の「授業のとり方」を参照してください。
- (3) 「専門科目」と「一般教養的科目」で最低要件の108単位を修得した場合、卒業要件124単位までの16単位は選択科目A、選択科目B、一般教養的科目の中から自由に選択できます。
- (4) 卒業論文は、ゼミナールⅢA・ⅢBの両科目を修得済であり、かつゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを修得済であり、かつ当該セメスタにおいてゼミナールⅣA・ⅣBのいずれかを履修する、第8セメスタ以上の学生のみが履修できます。ただし、3年次卒業対象者はその限りではありません。

### 卒業要件

#### 卒業要件

		授業科目区分	総合政策学科	
卒業要件124	専門科目	必修科目	38	84
		選択科目A	46	
		選択科目B		
	一般教養的科目	教養科目 自然科学系科目 人文科学系科目 社会科学系科目 総合科目 留学支援科目 (スポーツ健康科学系科目)		24
		他学部開放科目		
		語学系科目	16 (英語必修 1年8単位 2年8単位)	

第8セメスタ以上で、下記の(1)～(5)の修得条件をすべて満たした学生のみが卒業できます。

- (1) 専門科目の必修科目を38単位
- (2) 専門科目の選択科目Aを46単位以上
- (3) 一般教養的科目の語学系科目の必修科目を16単位
- (4) 一般教養的科目から24単位以上（上記(3)の必修16単位を含む）
- (5) 学科教育課程表の科目（教職科目Bを除く）を124単位以上

※第8セメスタ終了時に卒業できなかった学生は、第9セメスタ以降終了時に卒業要件を満たせば、9月に卒業することができます。



## 総合政策学科履修モデル

学科のカリキュラムを異なった5種類の興味で履修する場合のモデルを下表に示します。ただし、これはあくまでも参考なので、各自の興味、キャリア・デザイン、資格取得目的等に応じて、自分にあった履修パターンを組み立ててください。また、何か分からないことがあれば、ゼミナールの指導教員、教務課の窓口などに気軽に問い合わせてください。

	公共政策分野を 学び提案する	社会政策分野を 学び提案する	情報政策分野を 学び提案する	環境政策分野を 学び提案する	文化・政策比較を 学び提案する
<b>1 年次履修モデル</b>  専門必修：18 語学必修：8 専門選択：14 一般教養：4(8) 合計：44(48)	【 <b>専門必修</b> 】ゼミナールⅠA(2)、B(2)、総合政策入門A(2)、B(2)、現代社会経済入門A(2)、B(2) ミクロ・マクロ経済入門A(2)、B(2)、ミクロ・マクロ経済入門演習A(1)、B(1) 【 <b>語学必修</b> 】英語演習Ⅰ(表現)A(2)、B(2)、英語演習Ⅰ(理解)A(2)、B(2) 【 <b>専門選択科目</b> 】経済学の数学入門(2)、コンピュータ・リテラシーⅠA(1)、B(1) データ分析(4)、経済数学ⅠA(2)、B(2)、社会経済活動実習(2)など 特講Ⅰ(2)、特講Ⅱ(2)、教育・家族・雇用システム マルチメディアと情報化 自然と環境学(2)、自然 比較文化社会(2)、比較 経済政策A(2)、B(2) (2)、市民社会と国家(2) 社会(2)、デジタルコン 環境の理解(2)、健康 都市計画(2)、比較文 など 文化：グローバル教育(2) など 【 <b>一般教養的科目</b> 】ドイツ語演習Ⅰ(文法)A(2)、B(2)、ドイツ語演習Ⅰ(総合)A(2)、B(2) フランス語演習Ⅰ(文法)A(2)、B(2)、フランス語演習Ⅰ(総合)A(2)、B(2) 中国語演習Ⅰ(文法)A(2)、B(2)、中国語演習Ⅰ(総合)A(2)、B(2) スポーツ健康科学実技ⅠA(1)、B(1)、スポーツ健康科学講義Ⅰ(2)など 政治学A(2)、B(2)など 社会学A(2)、B(2)など 自然の数理A(2)、B(2) など 物質の科学A(2)、B(2) など 国際比較論A(2)、B(2) など				
<b>2 年次履修モデル</b>  専門必修：12 語学必修：8 専門選択：20 一般教養：4(8) 合計：44(48)	【 <b>専門必修</b> 】ゼミナールⅡA(2)、B(2)、ミクロ経済(4)、マクロ経済(4) 【 <b>語学必修</b> 】英語演習Ⅱ(表現)A(2)、B(2)、英語演習Ⅱ(理解)A(2)、B(2) 【 <b>専門選択科目</b> 】ミクロ経済演習(1)、マクロ経済演習(1)、データ分析(4)(1年次未履修) インターネット英語A(2)、B(2)、社会経済活動実習(2)(1年次未履修)など 行政システム(2)、政策 デザイン(2)、特講Ⅲ 社会政策A(2)、B(2)、 情報メディア(2)、情報 地球環境保全の理論・ 市民社会と国家(2)、フ (2)、特講Ⅳ(2)、公共 生き方と働き方の経済 政策(2)、コンピュータ 制度・政策(2)、環境の ランスの言語と思想(2)、 経済学A(2)、B(2)など (2)、社会的企業(2)、 リテラシーⅡA(1)、B(1)、 制度と政策(2)、現代の ヨーロッパの言語と文化 非営利組織(2)、人口 情報化社会と人間(2)、 産業政策(2)、社会的企 I(2)、II(2)、国際経 経済学A(2)、B(2)など 情報倫理(2)など 業(2)、非営利組織(2) 業システム論A(2)、B(2) など 【 <b>一般教養的科目</b> 】ドイツ語演習Ⅱ(文法)A(2)、B(2)、ドイツ語演習Ⅱ(総合)A(2)、B(2) フランス語演習Ⅱ(文法)A(2)、B(2)、フランス語演習Ⅱ(総合)A(2)、B(2) 中国語演習Ⅱ(文法)A(2)、B(2)、中国語演習Ⅱ(総合)A(2)、B(2) スポーツ健康科学実技ⅡA(1)、B(1)、スポーツ健康科学講義ⅡA(2)、B(2)など 法学A(2)、B(2)など 人類学A(2)、B(2)など 数理・情報実習講義A(2)、 環境の科学A(2)、B(2) など 多文化共生論A(2)、B(2) など				
<b>3 年次履修モデル</b>  専門必修：4 専門選択：32 一般教養：4(8) 合計：40(44)	【 <b>専門必修</b> 】ゼミナールⅢA(2)、B(2) 【 <b>専門選択</b> 】インターネット英語A(2)、B(2)、社会経済活動実習(2)(2年次まで未履修) 国の財政(2)、地方の財 雇用・労働政策(2)、少 情報と産業(2)、情報と 廃棄物政策(2)、地球 社会政策A(2)、B(2)、 政(2)、民営化と規制改 子高齢化の経済政策 企業(2)、知的財産政 温暖化防止の制度と政 社会的企業(2)、非営 革(2)、政策評価(2)、 (2)、社会保障政策(2)、 策論(2)、マルチメディア 策(2)、現代の産業政 利組織(2)、都市経済 現代の産業政策(2)、公 国の財政(2)、地方の 表現実習A(1)、B(1)、 策(2)、公民連携と地域 学A(2)、B(2)、情報メ 民連携と地域政策(2)、 財政(2)、公民連携と地 コンピュータ・リテラシー 政策(2)、政策評価(2)、 デディア(2)、生き方働 公共経済学A(2)、B(2)、 域政策(2)、公共経済 ⅢA(1)、B(1)、情報と 公共経済学A(2)、B(2) 方の経済(2)、経済発 法と経済学A(2)、B(2) 学A(2)、B(2)など 産業(2)など 展論A(2)、B(2)など 【 <b>一般教養的科目</b> 】英語演習ⅢA(2)、B(2)、検定ドイツ語A(2)、B(2)、検定フランス語A(2)、B(2) 中国語演習ⅢA(2)、B(2)など 日本国憲法(2)、社会 心理学の基礎(2)、社会 論理学A(2)、B(2)、社 地球倫理A(2)、B(2) 歴史の諸問題A(2)、B(2) 学A(2)、B(2)など 適応の心理学(2)など 会学A(2)、B(2)など など など				
<b>4 年次履修モデル</b>  専門必修：4 専門選択：8 一般教養：0(4) 合計：12(16)	【 <b>専門必修</b> 】ゼミナールⅣA(2)、B(2) 【 <b>専門選択</b> 】卒業論文(4) 少子高齢化の経済政策 政策デザイン(2)、政策 コンピュータ・リテラシー 国の財政(2)、地方の 現代の産業政策(2)、公 (2)、社会保障政策(2) 評価(2)、現代の産業 ⅣA(1)、B(1)、ゲーム 財政(2)、社会政策A(2)、 民連携と地域政策(2) など 政策(2)など 理論A(2)、B(2)など B(2)など など 【 <b>一般教養的科目</b> 】TOEIC(基礎)A(2)、B(2)、TOEIC(標準)A(2)、B(2)、時事ドイツ語A(2)、B(2)、 時事フランス語A(2)、B(2)、中国語演習上級A(2)、B(2)、その他一般教養的科目など				
<b>取得総単位数</b>	140単位(156単位)				

注：このモデルでは、卒業に必要な単位数(124単位)を16単位上回っています。(カッコ内は32単位)

カッコ内の数字は選択語学を4単位ずつ毎年継続した場合です。経済学部海外研修・語学研修への参加もおすすめします。





# 第2部 経済学科

## 授業のとり方・学び方

～入学から卒業まで～



# 『履修にあたっての心構え』

## 第2部経済学科主任 続 三義

経済学部の特徴は充実した専門科目と、幅広い教養科目、少人数のゼミ教育です。

入学するとまず必修科目として入門演習Aという科目がクラス分けされて登録されていますが、この科目は必修の少人数クラスで、大学生として必要な日本語の読み書きの指導（文章の要約・批判の仕方・メモの取り方、レポートの形式、書き方、発表の仕方、情報の収集・整理の仕方など）を中心にして、高校までとは異なる大学生活に慣れることを主目的として設定された授業です。必修科目としては2年生の現代経済入門A、Bがあります。これは教員が自分の専門とする分野を分りやすく紹介することを目的としたオムニバス形式の授業です。現在の経済学の動向、将来の自分の進むべき方向、ゼミを選択する際の参考になるはずで、3年から始まるゼミも重要な科目です。最先端の経済の研究が経験できる特色のある科目です。これ以外にも、選択科目Aに分類されている科目は経済を学ぶ上での基礎的な科目で、これらの科目はぜひ履修しておく必要があります。さらには第1・2部相互聴講科目といって、1部で開講している科目を2部の学生が履修できる科目や、他学部開放科目と称する経済学部以外の学部の専門科目を履修できる制度もあります。また、これらの専門科目とは別に、幅広い教養教育を目的とした人間探求分野、生涯健康のためのスポーツ健康科学分野、語学を中心とした文化間コミュニケーション分野などにも多くの科目が用意されています。総合大学の特色でもある、幅広い知識、教養を身に付けることができます。白山で学ぶ学生には自由に学ぶ環境が準備されています。これらの授業は基本的に春学期A、秋学期Bと独立した2つの科目になっていますが、原則としてA、Bともに履修することでしっかりと知識が身につくようにプログラムされているので、1年間通してA、Bともに履修することが期待されます。

多くの講義科目のほかに、実験、実習、実技、演習などの言葉が使われている科目もありますが、これらの科目では履修するのに担当教員の許可が必要であったり、履修登録を担当教員が行う科目であったりと、他の科目とは異なる履修登録となる場合があるので注意が必要です。オリエンテーションでの説明や履修要覧を参考にし、分らなければ教務課の職員に質問してください。

皆さんにはいくらかでも勉強する自由が与えられています。積極的に大学を利用し、充実した大学生活を送られることを期待しております。

## 第5章 第2部経済学科

### 1. 授業科目・履修単位数の制限

経済学部では、「専門科目」・「教職科目」・「一般教養的科目」を開講し、授業を行っています。また、4年間にわたってバランスよく授業科目を履修するために、履修登録することができる単位数に制限があります。

履修上限単位数(単位)

年次	春学期	秋学期
1~4	24	24

- 1) 1セメスタにつき24単位まで履修できます。(上限)
- 2) 既に単位を修得した授業科目は履修できません。
- 3) 上級学年に配当されている授業科目は履修できません。
- 4) 履修制限に含まれる科目は以下のとおりです。

### 第2部

卒業要件	区 分		履修制限
卒業要件単位 (124単位)	専 門 科 目	必修科目	制限内
		選択科目	
	一般教養的科目	教養科目	
		他学部開放科目	
		語学系科目	
卒業要件外単位	自由科目	制限外	
	教職科目B		

#### 「専門科目」

- a. 必修科目 この科目を履修・修得しなければ卒業できない科目です。学科ごとに卒業要件（単位数）が異なります。
- b. 選択科目A 経済学科の基本となる専門科目で、最低要件（単位数）があります。
- c. 選択科目B 幅広い分野として修得してほしい科目です。教職に関する科目も含まれます。

#### 「教職科目」

履修・単位修得しても卒業単位とはなりません。  
(教職に関する科目の履修については教職課程のページを参照してください)

#### 「一般教養的科目」

- a. 教養科目
  - b. 他学部開放科目
  - c. 語学系科目
- の各分野から構成されています。条件に沿って、一定の単位を履修し、かつ単位を修得します。

#### 〔スポーツ健康科学系科目について〕

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

〔他学部開放科目について〕

他学部が開講する科目です。他学部開放科目一覧を参照してください。

- ① 他学部開放科目一覧（P.69）に定める科目以外は履修することはできません。配当学年はその学部の配当に従ってください。
- ② 過去に単位を修得した科目については、再度履修することはできません。
- ③ **他学部開放科目は一般教養的科目の卒業必要単位数として算入します。**

〔自由科目について〕

経済学部の各学科授業科目一覧（教育課程表）にない科目で、なおかつ、他学部開放科目として履修できない科目の履修を希望する場合は、**卒業単位にならない自由科目として履修登録することができます。**（通年科目は除く）

- ① 所属する学部学科の科目と同一内容・同一名称の科目は履修できません。
- ② 履修する学部学科の学年配当に従ってください。
- ③ カリキュラム年度の異なる科目を履修することはできません。
- ④ 第2部学生が第1部開講科目を自由科目として履修することはできません。
- ⑤ 履修単位制限内に含まれます。
- ⑥ 自由科目を履修する場合は、担当教員の承認を必要とするので、所定用紙（教務課窓口で配布）に必要事項を記入し、その科目の担当教員の署名または認め印をもらい教務課に提出してください。

2. 第1・2部相互聴講制度

第2部学生が、第1部経済学部で開講されている授業科目を、下記の要領で履修・修得できる制度です。

- ① 経済学部第1・2部相互聴講科目を履修するためには、「マイクロ経済学」「マクロ経済学」を修得済みである必要があります。
- ② 1セメスタにつき8単位以内、かつ卒業までに合計30単位以内を履修・修得することができます。
- ③ 経済学部第1・2部相互聴講科目一覧にある科目のみ履修できます。
- ④ 1セメスタの制限履修単位（24単位）に算入されます。
- ⑤ 修得した単位は、専門科目として卒業単位に認められます。

経済学部 第1・2部相互聴講科目一覧

1部科目 開講学科	1学年	2学年	3学年	4学年
経 済			ゲーム理論A	(2) ゲーム理論B (2)
			応用マイクロ経済学A	(2) 応用マイクロ経済学B (2)
			現代経済学A	(2) 現代経済学B (2)
			中級マクロ経済学ⅠA	(2) 中級マクロ経済学ⅠB (2)
			中級マクロ経済学ⅡA	(2) 中級マクロ経済学ⅡB (2)
			経済成長論A	(2) 経済成長論B (2)
			経済統計分析A	(2) 経済統計分析B (2)
			都市経済学A ファイナンス論A	(2) 都市経済学B (2) (2) ファイナンス論B (2)
国 際 経 済			国際経済システム論A	(2) 国際経済システム論B (2)
			現代金融論A	(2) 現代金融論B (2)
			開発経済論A	(2) 開発経済論B (2)
総 合 政 策			民営化と規制改革 政策評価	(2) (2)

注意：1. 1・2部相互聴講科目は、「マイクロ経済学」「マクロ経済学」を修得していなければ、履修出来ません。また、上記の科目以外、1部開講の科目は履修することはできません。  
2. 括弧内の数字は、その科目の単位数を示します。

### 3. 卒業

経済学部を卒業するためには、第2部経済学科が開講する授業科目を、学科が定める一定の履修条件を基に124単位修得しなければなりません。詳細は授業のとり方・学び方のページを参照して、間違いなく履修登録を行い単位を修得してください。

### 4. ゼミナール・卒業論文

#### ① ゼミナールについて

ゼミナールは少人数の授業の中で、教員と学生が自由に議論しながら、専門的な領域の学習を着実に深めるためのものであると共に、教員と学生の親密な知的交流の場でもあります。大学院受験や公務員試験で必要となる人物証明書の準備のためにも積極的に履修してください。

#### ② 卒業論文について

- 1) 卒業論文の執筆要項は、講義要項や経済学部ホームページに掲載します。
- 2) **卒業論文の提出期限は厳守してください。提出期間外は「一切」受け付けません。**
- 3) 手続の日程については掲示等でお知らせします。

※卒業論文を執筆するためには履修登録が必要です。忘れずに登録してください。

経済学部第2部経済学科 授業科目一覧 (教育課程表)

区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年		
必修科目 (6)	入門演習A	(2) 現代経済入門A	(2)			
		現代経済入門B	(2)			
	選択科目 A (10)	入門演習B	(2) ミクロ経済学	(2)		
		経済学入門A	(2) マクロ経済学	(2)		
		経済学入門B	(2)			
		経済史A	(2)			
		経済史B	(2)			
		政治経済学A	(2)			
政治経済学B		(2)				
コンピュータ・リテラシー I A		(1)				
コンピュータ・リテラシー I B	(1)					
専門科目 (72)	基礎数学A	(1) 経済統計A	(2) 計量経済学A	(2) 経済学史A	(2)	
		基礎数学B	(1) 経済統計B	(2) 計量経済学B	(2) 経済学史B	(2)
		経済数学A	(2) ミクロ経済学演習	(1) 金融論A	(2) 医療経済学A	(2)
		経済数学B	(2) マクロ経済学演習	(1) 金融論B	(2) 医療経済学B	(2)
		経済学入門演習A	(1) 経済哲学A	(2) 財政学A	(2) 公共経済学A	(2)
		経済学入門演習B	(1) 経済哲学B	(2) 財政学B	(2) 公共経済学B	(2)
			人口経済学A	(2) 現代中小企業論A	(2) 法と経済学A	(2)
			人口経済学B	(2) 現代中小企業論B	(2) 法と経済学B	(2)
		現代産業論A	(2) 産業組織論A	(2)		
		現代産業論B	(2) 産業組織論B	(2)		
	国際地域研究(アジア)A	(2) 経済発展論A	(2) 国際貿易論A	(2) 世界の食料・農業経済A	(2)	
		国際地域研究(アジア)B	(2) 経済発展論B	(2) 国際貿易論B	(2) 世界の食料・農業経済B	(2)
		国際地域研究(ヨーロッパ)A	(2) 日本経済論A	(2) 国際金融論A	(2) ファイナンス分析A	(2)
		国際地域研究(ヨーロッパ)B	(2) 日本経済論B	(2) 国際金融論B	(2) ファイナンス分析B	(2)
		国際地域研究(アメリカ)A	(2) 多国籍企業論A	(2) 国際公共経済A	(2)	
		国際地域研究(アメリカ)B	(2) 多国籍企業論B	(2) 国際公共経済B	(2)	
	選択科目 B (56)	情報システムA	(2) 公共政策A	(2) 社会政策A	(2) 環境経済システムA	(2)
		情報システムB	(2) 公共政策B	(2) 社会政策B	(2) 環境経済システムB	(2)
		比較文化社会A	(2) 情報ネットワークA	(2) 労働の経済A	(2) インターネット英語A	(2)
		比較文化社会B	(2) 情報ネットワークB	(2) 労働の経済B	(2) インターネット英語B	(2)
		国と地方の財政A	(2)			
		国と地方の財政B	(2)			
	1・2部相互聴講科目(「第1・2部相互聴講科目一覧」(P.65)参照)					
				ゼミナール I A	(2) ゼミナール II A	(2)
				ゼミナール I B	(2) ゼミナール II B	(2)
					卒業論文	(4)
			コンピュータ・リテラシー II A	(1) コンピュータ・リテラシー II B	(1)	
			民法A	(2) 民法B	(2)	
			商法A	(2) 商法B	(2)	
		現代の経営	(2) 経営学	(2) 中小企業経営論A	(2) 中小企業経営論B	(2)
		現代の会計学	(2) 会計学	(2) 経営分析論	(2) 企業評価論	(2)
		経営組織論	(2) 組織行動論	(2) 経営財務論	(2) 投資決定論	(2)
			職業指導A	(2) 職業指導B	(2)	
			社会・地歴指導法 I	(2) 社会・地歴指導法 II	(2)	
			社会・公民指導法 I	(2) 社会・公民指導法 II	(2)	
教職科目	日本史A	(2) 日本史B	(2) 人文地理学A	(2) 人文地理学B	(2)	
	外国史A	(2) 外国史B	(2) 倫理学概説A	(2) 倫理学概説B	(2)	
	地誌学A	(2) 地誌学B	(2) 哲学概説A	(2) 哲学概説B	(2)	
	自然地理学A	(2) 自然地理学B	(2)			

(注) 1. 教職科目は卒業単位にならないので注意すること。  
2. 括弧内の数字は単位数を示す。



経済学部第2部経済学科 授業科目一覧（教育課程表）

区分		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
一般教養的科目 (16)	自然科学系科目	自然の数理A	(2) 自然の数理B	(2) 天文学A	(2) 天文学B (2)
		生活の科学A	(2) 生活の科学B	(2) 自然科学概論A	(2) 自然科学概論B (2)
		エネルギーの科学A	(2) エネルギーの科学B	(2) 自然誌A	(2) 自然誌B (2)
		物質の科学A	(2) 物質の科学B	(2) 生物学実験講義A	(2) 生物学実験講義B (2)
		環境の科学A	(2) 環境の科学B	(2) 化学実験講義A	(2) 化学実験講義B (2)
		地球の科学A	(2) 地球の科学B	(2) 数理・情報実習講義A	(2) 数理・情報実習講義B (2)
		生物学A	(2) 生物学B	(2)	
	人文科学系科目	哲学A	(2) 哲学B	(2) 日本の詩歌A	(2) 日本の詩歌B (2)
		哲学史A	(2) 哲学史B	(2) 西欧文学A	(2) 西欧文学B (2)
		倫理学A	(2) 倫理学B	(2) 現代日本文学A	(2) 現代日本文学B (2)
		芸術学A	(2) 芸術学B	(2) 地域文化研究A	(2) 地域文化研究B (2)
		東洋思想A	(2) 東洋思想B	(2) 地域史A	(2) 地域史B (2)
		百人一首の文化史A	(2) 百人一首の文化史B	(2) 歴史の諸問題A	(2) 歴史の諸問題B (2)
		日本の昔話A	(2) 日本の昔話B	(2) 宗教学ⅠA	(2) 宗教学ⅠB (2)
		日本文学文化と風土A	(2) 日本文学文化と風土B	(2) 宗教学ⅡA	(2) 宗教学ⅡB (2)
	旅と言語	(2) 観光の歴史	(2)		
社会科学系科目	法学	(2) 日本国憲法	(2) 政治学A	(2) 政治学B (2)	
	人類学A	(2) 人類学B	(2) 社会学A	(2) 社会学B (2)	
	心理学の基礎	(2) 社会適応の心理学	(2) 地理学A	(2) 地理学B (2)	
総合科目	総合ⅠA	(2) 総合ⅠB	(2) 総合ⅡA	(2) 総合ⅡB (2)	
	総合ⅢA	(2) 総合ⅢB	(2) 総合ⅣA	(2) 総合ⅣB (2)	
	総合ⅤA	(2) 総合ⅤB	(2) 総合ⅥA	(2) 総合ⅥB (2)	
	総合ⅦA	(2) 総合ⅦB	(2)		
	全学総合ⅠA	(2) 全学総合ⅠB	(2) 全学総合ⅡA	(2) 全学総合ⅡB (2)	
留学支援特別科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ (4)		Special Course in Advanced TOEFLⅡ (4)		
スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技A	(1) スポーツ健康科学実技B	(1)		
	スポーツ健康科学講義Ⅰ	(2) スポーツ健康科学講義ⅡA	(2) スポーツ健康科学講義ⅡB	(2)	
情報系科目	情報化社会と人間	(2) 情報ネットワーク論	(2)		
他学部開放科目	第2部他学部開放科目一覧(P.69)参照				
語学系科目	経済学部開講英語	英語演習ⅠA	(2) 英語演習ⅡA	(2)	
		英語演習ⅠB	(2) 英語演習ⅡB	(2)	
	ドイツ語	ドイツ語ⅠAA	(1) ドイツ語ⅡAA	(1)	
		ドイツ語ⅠAB	(1) ドイツ語ⅡAB	(1)	
		ドイツ語ⅠBA	(1) ドイツ語ⅡBA	(1)	
		ドイツ語ⅠBB	(1) ドイツ語ⅡBB	(1)	
	フランス語	フランス語ⅠAA	(1) フランス語ⅡAA	(1)	
		フランス語ⅠAB	(1) フランス語ⅡAB	(1)	
		フランス語ⅠBA	(1) フランス語ⅡBA	(1)	
		フランス語ⅠBB	(1) フランス語ⅡBB	(1)	
	中国語	中国語ⅠAA	(1) 中国語ⅡAA	(1)	
		中国語ⅠAB	(1) 中国語ⅡAB	(1)	
		中国語ⅠBA	(1) 中国語ⅡBA	(1)	
		中国語ⅠBB	(1) 中国語ⅡBB	(1)	

## 第 2 部 他学部開放科目一覧

開講学部	開講学科	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	
文学部	インド哲学科		現代に生きる仏教 仏教と社会福祉	(2) 現代のインド (2) インド現代思想	(2) 日本の思想 (2) ヨーガとアーユルヴェーダ	
	日本文学文化学科	古代日本文学史A	(2) 近代日本文学史A	(2)		
		古代日本文学史B	(2) 近代日本文学史B	(2)		
		中世日本文学史A	(2) 近現代日本文学史A	(2)		
		中世日本文学史B	(2) 近現代日本文学史B	(2)		
		英語圏文学文化と日本A	(2) フランス語圏文学文化と日本A	(2)		
		英語圏文学文化と日本B	(2) フランス語圏文学文化と日本B	(2)		
		ドイツ語圏文学文化と日本A	(2) 中国文学文化と日本A	(2)		
		ドイツ語圏文学文化と日本B	(2) 中国文学文化と日本B	(2)		
		日本の伝統行事A	(2) 日本美術文化史A	(2) 日本出版文化史A	(2) 比較文学文化史A	(2)
日本の伝統行事B		(2) 日本美術文化史B	(2) 日本出版文化史B	(2) 比較文学文化史B	(2)	
教育学科	生涯学習概論 I	(2) 特別支援教育概論 I	(2)			
	特別支援教育概論 II	(2)				
	生涯学習概論 II	(2) 家庭教育論	(2) 比較政策論	(2) 情報化と社会教育	(2)	
	社会文化史(日本)	(2) 社会教育計画論 I	(2) アメリカ思想史	(2)		
	社会文化史(西洋)	(2) 社会教育計画論 II	(2) 社会教育課題研究 I	(2)		
	女性問題と学習	(2) 比較社会論	(2) 社会教育課題研究 II	(2)		
	経営史A	(2)				
経営史B	(2)					
環境マネジメント入門	(2)					
環境マネジメント	(2)					
法学部	法律学科	法制史(日本)A	(2) 法制史(西洋)A	(2) 法哲学A	(2)	
		法制史(日本)B	(2) 法制史(西洋)B	(2) 法哲学B	(2)	
		英米法A	(2) 労使関係法・労働市場法A	(2) 国際法A	(2)	
		英米法B	(2) 労使関係法・労働市場法B	(2) 国際法B	(2)	
		ドイツ法A	(2) 雇用関係法A	(2) 政治学原論A	(2)	
		ドイツ法B	(2) 雇用関係法B	(2) 政治学原論B	(2)	
		フランス法A	(2) 経済法A	(2)		
		フランス法B	(2) 経済法B	(2)		
		行政学A	(2) 刑事政策A	(2)		
		行政学B	(2) 刑事政策B	(2)		
社会学部	社会学科	社会文化思想史A	(2) 地域社会学A	(2) 宗教社会学A	(2) 臨床心理学A	
		社会文化思想史B	(2) 地域社会学B	(2) 宗教社会学B	(2) 臨床心理学B	
		集合行動論A	(2) 環境社会学A	(2) 犯罪社会学A	(2) マス・コミュニケーション概論A	
		集合行動論B	(2) 環境社会学B	(2) 犯罪社会学B	(2) マス・コミュニケーション概論B	
		社会学史A	(2) 家族社会学A	(2) 組織社会学A	(2) 情報学基礎論A	
		社会学史B	(2) 家族社会学B	(2) 組織社会学B	(2) 情報学基礎論B	
		社会統計学	(2) 情報倫理概論	(2) コミュニケーション論	(2)	
			社会統計解析法	(2) 質的調査法	(2)	
				産業地域論A	(2) 産業地域論B	
					(2)	
社会福祉学科	社会福祉学概論A	(2) 医療福祉論	(2)			
	社会福祉学概論B	(2)				
国際地域学部		社会調査法	(2) 宗教と社会	(2) アジア・太平洋地域論	(2)	
		科学技術倫理	(2) 文化人類学	(2) アジア社会論	(2)	
		現代社会論	(2) ヨーロッパの地誌と文化 I	(2) 経済協力論	(2)	
		社会システム哲学	(2) ヨーロッパの地誌と文化 II	(2) 国際環境計画入門	(2)	
		社会システム論	(2) プロジェクト実施・評価	(2) 環境管理適正技術論	(2)	
		環太平洋ツーリズム論	(2) 水辺と環境	(2) 都市環境論	(2)	
		ホテル開発論	(2) 自然災害と防災	(2) まちづくり手法論	(2)	
		サービスマネジメント	(2) 都市地理学	(2) 地域計画	(2)	
		リゾート開発計画論	(2) 経済地理学	(2) 映像社会学	(2)	
		自然保護・公園論	(2) 地域福祉論	(2) 社会基盤計画・政策	(2)	
		国際観光交流論	(2) 公共経営論	(2) 地域システム論	(2)	
		観光行動モデル	(2) 地方自治論	(2) 都市計画	(2)	
		北米ツーリズム論	(2) 欧州ツーリズム論	(2) 食品衛生論	(2)	
			観光マーケティング	(2) 地域財政と観光	(2)	
			レストラン経営論	(2)		

## 第2部経済学科

### 授業のとり方

- (1) 授業は全て半期で完結します。「講義要項」等で特別な指定（Aを修得してからBを履修すること等）がない限り、AないしBのみの履修が可能です。
- (2) 「専門科目」と「一般教養的科目」で最低要件の88単位を修得した場合、卒業要件124単位までの36単位は選択科目、一般教養的科目の中から自由に選択できます。
- (3) 4年次の卒業論文の履修については、ゼミナールⅠ A・Ⅰ Bの両科目を修得済であり、かつゼミナールⅡ A・Ⅱ Bのいずれかを修得済であり、かつ当該セメスタにおいてゼミナールⅡ A・Ⅱ Bのいずれかを履修する、第8セメスタ以上の学生のみが履修できます。

### 卒業要件

卒業要件（数字は単位数を示す）

		授業科目区分	第2部経済学科	
卒業要件 124	専門科目	必修科目	6	72
		選択科目A	10	
		選択科目B	56	
	一般教養的科目	教養科目 自然科学系科目 人文科学系科目 社会科学系科目 総合科目 留学支援特別科目 スポーツ健康科学系科目 情報系科目 他学部開放科目 語学系科目	16	

第8セメスタ以上で、下記の(1)~(6)の修得条件をすべて満たした学生のみが卒業できます。

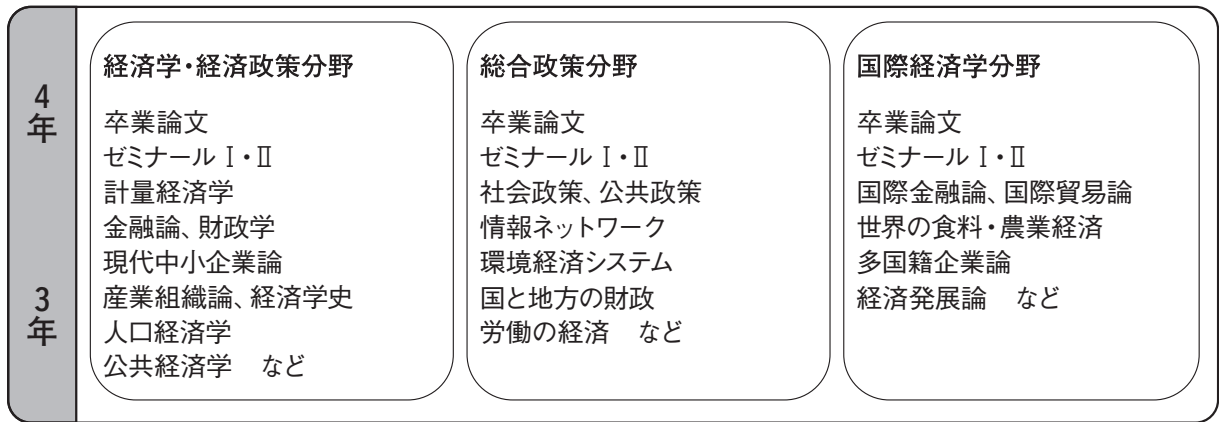
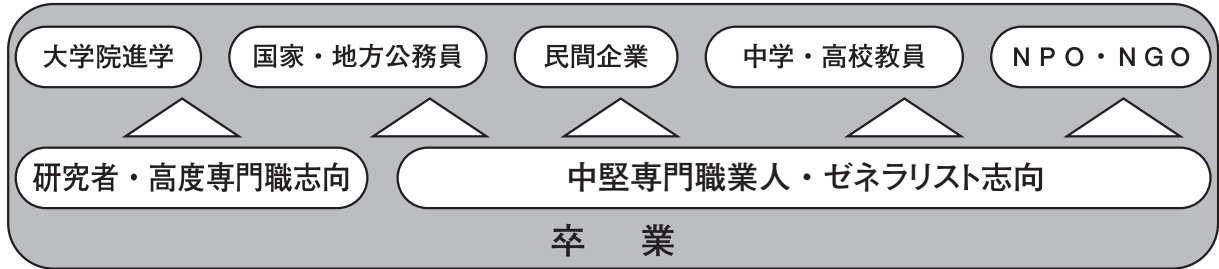
- (1) 専門科目の必修科目を6単位
- (2) 専門科目の選択科目Aを10単位以上
- (3) 専門科目の選択科目Bを56単位以上
- (4) 一般教養的科目から16単位以上
- (5) 学科教育課程表の科目（教職科目を除く）を124単位以上
- (6) **4年次最初のセメスタおよび最終セメスタで各1科目以上履修し、かつ4年次で専門科目を2科目以上修得すること。**

※ 第8セメスタ終了時に卒業できなかった学生は、第9セメスタ以降終了時に卒業要件を満たせば、9月に卒業することができます。

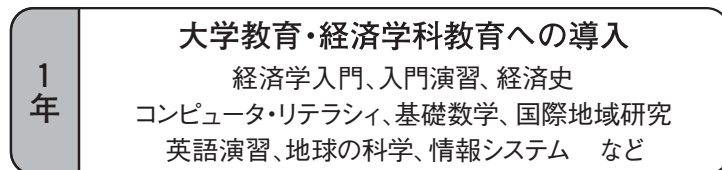
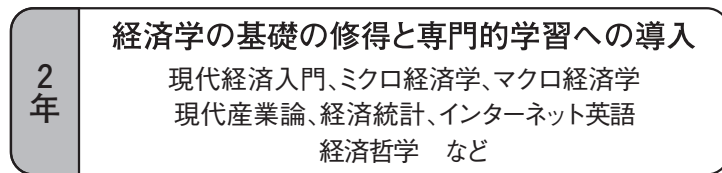
# 第2部 経済学科

科目展開チャート

激動する現代の経済の働きを多角的に把握。  
2～4年次には「経済学」「総合政策の問題」「国際経済」の3領域から自分の志向に合った科目を選択し、多彩な知識の体系的修得をめざします。



## 経済学の分野別専門的学習の展開



第2部 経済学科に入学